

法輪大法

米国東部法会での説法

李 洪 志

米国東部法会での説法

李洪志

一九九九年三月二十七、二十八日ニューヨークにおいて

本来、今回の法会は米国東海岸の法輪大法の弟子が開く学法交流会でしたが、現在の状況から見ると、在席の多くの方は他の国や地区から駆けつけて来たようです。皆さんは師父が多分来ると思っていたようです。ここで言うておきますが、今後どこかの地区で交流会を開いても、私は行かないかもしれません。あなたも無駄足を踏まずに済むのです。世界各地に毎週のように大法交流会が開かれていますので、私は全てに参加するわけにはいきません。このことを皆さんにまず言うておきたいと思います。

もう一つですが、今回の交流会は非常によくまとめられています。多くの学習者たちは黙々と多くの事を行ない、大会のために多大な努力を尽くしました。ここで私は皆さんを代表して、この環境を提供した学習者たちに感謝の意を表したいと思います。同時に、今回の大会を成功裏に収めなければなりません。大法の法会は決して形式的なものになってはならず、真に自らを向上させ、自分との差や不足を見出し、皆さんの向上と圓滿成就を促進することができるような大会にすべきです。そうすれば、大会のために貢献した学習者たちの気持ちを無駄にせず、大会が果たすべき作用を真に発揮することができます。各地で交流会を開く時も、このようにしなければならず、このような大会を皆さんの修煉と向上に本当に役立つものにし、形式的なものになってはいけません。

修煉は人数の多少を見てはいけません。私は話したことがありますが、私は人が多いか少ないかを気にしません。百分の一の人が修煉していれば、私が行なったことも無駄になりません。ましてや多くの方が修煉しています。みな修煉して向上し、迅速に向上しています。皆さんも非常に精進しています。このことは私も目にしました。現在、大法が全世界でますます多くの人々に認識されつつあり、大法を学ぶ人はますます多くなります。それによって、幾つかの問題が伴ってきます。つまり、当初皆さんがこの法を認識した時、多くの疑問を持っており、認識が足りないために生じた問題が現れてきます。在席の新しい学習者は、どの民族の人であっても、どの国の人であっても、法を学ぶ時に絶えず本を読み、はじめて心の中の疑問を解くことができます。修煉の過程で、繰り返し本を読むよう

に私は毎回の法会で言っています。なぜ私は再三にわたってこの話を繰り返すのでしょうか？ 毎日新しい学習者が入って来て学んでいるので、この話は今後も言い続けなければなりません。つまり、私がこの法を伝え出したのは人々が修煉でき、向上できるようにするためです。これは間違いのないことであり、実践の中でこの点をやり遂げることができると実証されました。

しかし、ご存知のように、私はこの世においてこの肉体を持っている一人の人間です。もし一人一人の学習者にどのように修めるかを教えるのであれば、これはなかなか難しいことです。なぜなら、一億以上の人々が学んでおり、将来さらに多く、さらに多くなります。大法が伝え出されましたが、私はこの世で一人一人に会って説き、教えることができません。しかし、また皆さんに向上させ、本当に向上させ、ひいては圓滿成就までさせなければなりません。私がこのことをやり遂げることができなければ、皆さんを騙していることになるのではありませんか？ しかし、実践が証明したように、皆さんは修煉して向上してきてだけでなく、修煉が非常に良くできています。これは私が皆さんのために責任を負うことができ、私の言ったことが目的に叶っていることを証明しました。先ほどお話ししましたが、多くの学習者がおり、私は皆さんに会うことができず、自ら手取り足取り皆さんに教えることはできませんが、『轉法輪』を読みさえすれば、得るべき全てを得ることができます。(拍手) ご存知のように、この本は普通の本ではなく、それは法なのです。人類社会に各種の法律、理論や学説がありますが、皆さんに教えますが、それらは全て人間のもので、人間が常人社会という次元に持っているものです。それに対し、今日私が皆さんに教えているのは、人類社会の全ての学説と全ての常人の法をはるかに超えたものです。このようなものである以上、中に偉大で不思議な内涵があります。つまり、修煉したければ、この法は真にあなたを導き向上させることができます。この本は見た目では、白い紙に活字があるだけで、普通の本と何の違ひもありません。しかし、人間の目は常人社会という空間に限られて物事を認識するだけで、この範囲を超えれば見えなくなります。現在の科学もそこまで発展できず、認識することができません。しかし、他の空間において、私たち人類がまだ認識していないさらに高い境地に、異なる生存環境とそれらの生命が生存する空間があります。つまり、人間のこの空間ではそれが一冊の本にしか見えませんが、他の空間で見ればこのような状態ではなくなり、それは天法なのです。私はここで李洪志がいかに偉いかを言っているではありません。私はいつも皆さんに言っていますが、私は取りも直さず一人の人間であり、私が偉大だと思わなくて結構です。皆さんに教えているのはこの法であり、皆さんが集まって修煉し、向上し、この法を認識できるようにしました。

多くの学習者が私に会えないので、私はいつも「法を師とするように」と言っています。この法は皆さんの修煉の全てを指導することができ、白い紙の上にある活字の背後に無数の佛、道、神がいます。本を読む時、あなたは向上したい、ある境地まで達したいと思いますが、あなたの境地に相応する次元に達した時点で、各文字の背後にいる神はその背後にある異なる次元での本当の内涵をあなたに分からせるのです。これは皆さんが繰り返し本を読んでいる時、なぜ同じ言葉を何回読んでも認識が異なるかの理由です。在席の中に百回以上読んだ人は少なくありません。一億以上もの大法弟子の中にこの本を百回以上読んだ人は既に少なくありませんが、皆さんはまだ読み続けています。皆さんは既にこの法を手放すことができません。なぜなら、読めば読むほど中に多くのものが含まれていると気づき、読めば読むほど多くのことが分かったからです。現在の科学が認識したものをも含めて、人類が認識したものをはるかに超えているので、皆さんは向上することができます。もちろん、法はあなたの向上と修煉を指導し、多くのこともしてあげることができます。しかし、皆さんに教えますが、あなた自身の修煉こそが極めて重要なのです。もし修煉する心がなければ、何も始まりません。必ず確固とした修煉の気持ちを持つべきです。法の学習を通じてこれらの道理が徐々に分かってくるので、あなたの心もだんだん固められます。疑問があることを恐れなくてください。皆さんが問題に気付くことができるのを見て私は非常に嬉しいのです。多くの解けない問題、聞きたい問題がありますが、実は修煉の中で絶えず本を読むことによって、それらの問題が解けるのです。多くの古くからの学習者は知っていますが、一回目に本を読む時、「なぜですか？ なぜですか？」と多くの疑問を持ちます。ひいては多くの考えは認識の初期段階に留まっていて、「これらは本当のことですか？」と考えるのです。しかし、二回目に読めば、あなたの全てのこのような考え、疑問は解けるのです。二回目に読む時、同様に新しい問題が現れますが、三回目に読む時にそれも解けるのです。他でもなく、このように、徐々に進むという過程です。とても簡単に見えますが、実は皆さんに教えますが、これが修煉です。毎回毎回読んでいるうちに既に向上しているのです。

ご存知のように、現在一億以上の人々が法を得ました。歴史上伝えられた正法はこれほどの人数に達したことはありません。もちろん、私はさらに多くの人に法を得させます。古くからの学習者は知っていますが、現在、歴史の特殊な状況下にあるので、これほど大きな法を伝えました。ですから、修煉の中で必ず本を多く読むべきです。これは皆さんの向上にとって極めて重要な一歩です。必ずそう

しなければなりません。人間が常人社会で接触しているのは全て、常人社会の現実的なものです。時間を大切にして本を読まなければ、あなたの修煉の気持ち、修煉の心が薄れ、修煉の中で精進しなくなり、ひいては修煉を放棄することまであり得ます。しかし、私はいつも思いますが、人間は既に法を得ましたが、それは容易いことではないので、大事にしなければ本当に惜しいのです。なぜなら、これは千年、万年の歴史上、天地開闢以来なかったのです。昔、宇宙の真の法を人間に説くことがあり得たのでしょうか？ 全く不可能でした。

先ほども言いましたが、今は歴史の特殊な時期なので、私はこの法を説きました。将来の人類社会に大きな変動があります。宇宙に多くの特殊な現象が現れます。現在の科学は既に発見しましたが、絶えず新しい天体が形成され、古い天体が爆破されています。最近新聞もよくこのようなことを載せています。今まで何もなかったところに星系が現れ、多くの古い星が解体され、多くの新しい星が現れています。これは遙か遠い天体で現れたことですが、徐々に私たち人類の肉眼で見えるこの空間範囲に近づき、これらの光景が現れてきます。もちろん、私がこれらのことを話し、歴史の特殊な状況下でこの法を伝えたのは、くれぐれも法を大事にするように皆さんに教えたいからです。法を学ばなければ、法の貴重さも分かりません。法を学ぶことができれば、学ぶほどその貴重さが分かってきます。

人類社会の宗教は全て、千年以上または千年前後を経て、長い歲月の中で、みな宗教の最も本質的で、最も根本的なものを失いました。つまり、人々を元に向かって圓滿成就まで昇華させ、天国世界に行かせる目的に達することができなくなりました。現代において、宗教は既にこのような作用を働くことができなくなり、人間は自分の想像の中で生活しているだけです。ですから、私はこの時期を選んで大法を伝えることにしました。皆さんが知っておかなければならないのは、この法を伝える時、もし目的に達することができなければ、それに伴って非常に恐ろしいことがもたらされます。今まで私はこのことに触れませんでした。このことを言う前に、まずある社会問題についてお話します。ご存知のように、人類社会に、特にこの千年、二千年の間の様々な学説の中に、善なるもの、悪なるもの、中間的なものが非常に多く、その上各種の宗教の学説もあります。特にいくつかの正教は初期の時、人々を良い人間にすることが目的であるため、人類社会の道德の基準を維持する上で、大きな役割を果たしました。同時に、さらに良い人間になった人々は次元が高められ、彼らの天国に戻りました。しかし、長い歲月の中で、これらの学説は徐々に現在の人間の思想観念によって薄められ、人間

もこれらのことを受け入れられなくなり、また信じなくなりました。教会に行って礼拝することをモダンな行為とし、真にイエスまたは聖母マリア或いはエホバの言ったとおりに行動しようとしていません。これをやり遂げることができなければ、天国に行くことができません。佛陀の要求に照らして行動しなければ、天国に行くことができません。私は神の要求に照らして行なっていると言う人がいますが、実はどのように彼らの要求に照らして行なうかということさえ、あなたには分かりません。これは私が言った、宗教の中においても修煉することができず、あなたを元の位置に戻らせることのできない根本的な原因です。

今日私はこれほど大きな法を伝え、全ての人々の心を震撼させることができます。本さえ読めば、これが良い本であると分かり、本さえ読めば、法の偉大さが分かります。私が言ったのは宇宙の中の本当の理であり、人々はきっとこの法に震撼されます。非常に悪くなった人、宇宙の特性に完全に背離した人でも、この法に震撼されます。なぜでしょうか？ このような人は既に完全に法と対立しているので、彼らは恐怖と憎悪の念を抱くようになります。つまり、このような人は既におしまいになりました！ ですから、全ての人はこの法に震撼されるのです。この法に同意するか、または反対するかのいずれかです。

先ほどお話しましたが、この大法を伝える時、非常に深刻な問題がもたらされました。古から今日までの全ての理論は、人間の心を再び最も良い時期に戻らせることができませんが、私が伝えているこの宇宙の根本的な大法は実践で証明されたように、人々を圓滿成就させることができます。しかし、もしこの法が皆さんを元に戻らせることができなければ、古代から現在まで、将来までも皆さんを元に戻らせる方法はなく、人類にはもう何の希望もありません。これは極めて危険なことです！ この法が本当にこの作用を働くことができず、または破壊されれば、人類はもう救いようがありません。(拍手) なぜなら、これは宇宙の至高の法理であり、これ以外に宇宙の根本的な大法の力を果たすことができる法理は存在しないからです。しかし、実践が既に証明したように、私は皆さんを導いてこの一步を乗り越えて来ました。私は真に学習者を向上させ、弟子を修煉によって真に向上させました。しかも、さらに多くの人々に法を認識させることができました。人類社会の道徳がいくら急落しても、いくら悪くなっても、人間は無知の中で悪いことをし、間違ったことをしていますが、一旦この法を知れば、この法に従って行なうことができると私は気付きました。つまり、人間にはまだ佛性があり、善の念、善良な本質があるということです。ただ知らず知らずのうちに多くの良くないことをしました。

私は皆さんを導いてこの一步を乗り越えて来ましたが、私にとってこれは非常に嬉しいことです。(拍手) 私たちの学習者、人類社会にとって、これこそ最も喜ばしいことです。なぜなら、皆さんは本当にその最も恐ろしい危険な状態を乗り越え、そこから抜け出すことができたからです。(拍手) ご存知のように、歴史上多くの預言者、気功師、宗教の中で悟りを開いた人が、この世紀末、人類にはあれこれの災難が起り、ひいては人類が壊滅される状態に曝されると言いました。もちろん、これは私が言ったことではなく、私はそれらの預言者が言ったことを話しているだけです。

災難が起こるかどうかについて、私は人類に明確な答えを出すことができます。ご存知のように、私が『轉法輪』の中で話した、腐ったリンゴの例ですが、つまり、この膨大な宇宙の中で、私たちには地球が一つのリンゴのように見えますが、このリンゴは既に腐りきっているのです。リンゴの中の一つ一つの分子は一人一人の人間のようであり、みな既に腐っています。このリンゴを処分し、捨てて、片付けるべきではないでしょうか？ もし人類社会の道徳がここまで低下したら、神の目から見れば、あの腐ったリンゴのように処分されるべきではないでしょうか？ しかし、神として、ご存知のように、特に人類に近いところにいる次元の神は、人間に対して慈悲深いのです。彼らは人類を救いたいと思っています。しかし、皆さん考えてみてください。腐ったリンゴを救うことですが、このリンゴを捨てずに部屋に置いておけば、ますます腐り、ウジがわいてきます。きれいな部屋にウジがいっぱいわいている腐ったリンゴが置かれています。どうしてそこに置くことができるのでしょうか？ どうしてもそこに置くのであれば、あなたは悪事を働いているのではありませんか？ この宇宙のように、この地球は既にこのようになっていますが、まだそれを処分しないのでしょうか？ それを処分しない神がいれば、その神は悪事を働いているのではありませんか？ しかし、神は人間とは違います。神には能力があり、このリンゴを最も原始的な粒子から新鮮なものにし、再びそれを新鮮なリンゴにすることができます。その構造を変え、それによってリンゴは良いリンゴになりました。この時、誰かがこのリンゴを捨てようとするれば、その人は悪事を働くことになるのではありませんか？ しかし、これは普通の神にできることではありません。

今日全世界に一億人の人が修煉しており、自分の考えを変え、良い人になるよう善に向かい、真に宇宙の異なる次元の基準に達するよう努力しています。では、この地球を爆発させることができるのでしょうか？ それを処分させることができ

るでしょうか？ 予言者たちが言った予言は実現されるでしょうか？ それは実現されないことになります。私が言いたいのは、いかなる予言であっても、今日になると、その予言は効かなくなります。なぜなら、今日人類社会で大法が伝わっており、人心が向上し、急速に向上しているからです。昨日、ある記者が、「現在一億の人が学んでおり、しかもこの勢いは急速に広がっており、さらに多くの人が学ぼうとしています」と、私に言いました。現在、一億の人々が自分の道徳を向上させており、この一億の一人一人がもう一人に伝え、学びに来れば二億人になります。この数字は非常に速い速度で増えており、大きな数字になります。人々はみな善に向かい、良い人になるように努力し、自分の道徳基準を高めています。人類社会は先ほど私があげた例のように、このリンゴが新鮮なものになれば、それを処分する人がいるでしょうか？

人類社会の発展、宇宙の中の全ての状態は神によって按排され、全てに規律があります。なぜなら、人類社会に戦争、地震、洪水、伝染病、疫病などを含む良くない状態、他の多くの自然災害が現れますが、実はそれには目的があり、業を滅しているのです。人間の考えは神に指揮されていますが、人間は自分の考えの由来について考えたことがありません。何かをしたい時、頭が働き、いわゆるひらめきが現れ、急に何かを思い出します。人間は自分でそれを考え出したと思いますが、実は多くの場合は違います。神は人類社会の全てを確実に掌握しています。しかし、宇宙に一つの理があります。つまり人間が何をしたいのか、一人の個体として自分が何をしたいのか、やはり本人の考えを見るのです。修煉したければ、あなたの修煉を手伝いますが、良くなりたくなければ、好きなようにさせます。それによって、人間は非常に悪くなります。しかし、人類社会の全体が神によって制御されているため、人間は良くなれば、良い未来、光に満ちた前途を手にすることができます。悪くなれば、良くない未来、暗闇や悪業が待っています。

先ほどの話は、皆さんの修煉とこの法に言及した時、引き出された話ですが、その目的は、この法を大切にしよう皆さんに教えるところにあります。現在一億の人が学んでおり、皆さんは既に歴史を変えましたが、これは喜ばしいことではありませんか？ これは偉大なことではありませんか？（拍手）しかし、まだ多くの良くない人がおり、まだ悪事を働いています。ですから、予言者が言ったような大きな災難は人類に現れていませんが、局部にやはり非常に良くないことが現れます。なぜなら、そこには法がないからです。

今日は学法体験交流会なので、皆さんの時間を多く使いたくありません。ただ皆さんに会ってみたいだけです。学習者の発表と交流を通じて、皆さんは何らかの向上と認識を得ることができ、これが私たちの法会の趣旨です。もちろん、皆さんに多くの質問があり、時々刻々新しい学習者が学びに来ているので、新しい学習者から出された質問があります。また古くからの学習者からも質問が出されています。ですから、明日の午後、皆さんの質問にお答えします。先ほど、皆さんに法を大切に、法を多く学ぶように教えました。必ず繰り返し本を読むべきであり、このようにすれば、あなたは既に向上の中にいます。私は私の能力をこの大法に注ぎ込んでおり、学んでいればあなたは変わり、向上し、最後まで学ぶことができれば圓滿成就することができます。(拍手)

ついでに幾つかの小さな問題についてお話します。一つは、古い学習者は圓滿成就していない限り、これからは外に出て煉功すべきです。このことを私はもう一度言います。なぜこのように言わなければならないのでしょうか？ 私たちの修煉環境、法を学ぶ時の環境、学習者が一緒に話し合っていること、言った話は全て高尚なもので、とても得がたく最も純粹で清らかな環境だからです。これは人類社会において非常に得がたいことであり、最も善良で素晴らしい浄土です。ですから、皆さんはこの環境を失ってははいけません。なぜなら、人類社会はまだ滑落し続けており、ますます悪くなっているからです。皆さんは常人社会で仕事や社会活動をしており、常人社会と接触しています。このようにあなたが影響されたもの、目で見たもの、耳で聞いたものは全て常人の中のことなので、あなたの修煉は妨害されるのです。ですから、皆さんが時々一緒に法を学び、常にこのたらいのきれいな水で自分を洗うのは有益なことです。

もう一つですが、最近私は二つの文章を書きました。皆さんはそれを経文と言っています。中に提出した問題は非常に厳粛なものであり、現在、比較的突出している問題でもあります。つまり、低次元で半ば悟りが開いた人のことですが、この部分の人は次元が高くなく、法に対する理解が不十分であるため、私の説いた多くのことを完全に理解することができません。このような人が低い次元で半ば悟りが開いていれば、高次元の空間（上の空間で法が正され、古い宇宙が解体し、新しい宇宙が建てられているので、この現実から逃れるため、人間のこの空間に逃げて来て、人類の空間に入り込んで避難しています）から三界に逃げて来たそれらの良くない高次元の生命、またはもともと三界にいた低い次元の神が見えます。彼らは宇宙に起きたことの真相が見えません。もちろん、三界に入って来る前はそれを知っていますが、入ってから何が起こったか分かりません。つま

り、彼らは完全にここに封じ込められてしまったのです。

彼らの多くは法を正すことと大法に抵触しているのです。しかし、真相を知らないものも多くいます。つまり、もともこの空間の神ですが、この現実 접촉していないため、真相を知らないのです。そのため、彼らも大法の学習者を妨害することがあります。故意に妨害する者もいます。自分が宇宙の大法を妨害しているとは知らず、大きな罪を犯していますが、これに気付いていません。なぜなら、宇宙の真相は現在覆われており、彼らに見られないようにしているからです。彼らは三界内のことしか見ることができません。現在、大法は既に三界に入っており、三界内で法を正しています。

従って、低い次元で天目が開いた人に大きな妨害がもたらされました。天目が開いた学習者に偉大な神、素晴らしい神が見えました。この神は学習者に大法を破壊する話をしました。もちろん、それは神の作り話です。その目的は学習者を惑わせ、大法から淘汰させようとするところにあります。また、一部の神は私の法身を装って、皆さんにどのようにすべきか教えています。修煉中の弟子にどのようにすべきかをはっきり教えるのは、必ず大法と学習者を破壊しに来るものです。なぜあなたは利用されたのでしょうか？ あなたに強い執着があるから利用されたのです。道は自分で決めるものです。将来の位置もあなたの生命が置かれるべき位置なのです。皆さん考えてみてください。法を正すことがまだ及んでいないこの空間も、私にコントロールされているのです。

なぜ彼らがこのようなことをするのを許しているのでしょうか？ あなたの修煉は順風満帆に進んではいけないからです。将来、あなたが偉大で圓滿成就した神として天国世界に現れた時、「あなたはどのように修めて上がって来たのですか？」と神々に聞かれます。厳しい試練を経たかどうか、修煉の中でこの法を修め続けるかどうかを試す本当の関があったかどうか、難の中で確固としていたかどうか、などは極めて重要なのです。ですから、逆にこの妨害を利用してあなたの心を見えています。このような試練に耐えられず、法から離れた人、動揺してしまった人がいます。しかし、この状況がますます激しくなったため、私はここでそれを取り上げて、法から離れた人たちに最後のチャンスを与えます。でなければ、彼らはこの機会を失います。皆さん考えてみてください。宇宙で法を正す中で、多くの大きな神が悪くなり、落とされました。彼らは人間になる機会さえ失いました。人間より低いところに落とされた神、ひいては消滅された神もいます。人間はなおさらではありませんか？！ ですから、この機会を失えば、将来二度

と機会はありません。もちろん、何を得るかは自分で決めることです。私がこのことを書いたのは、この機会を失わないよう皆さんに教えるところにあります。

もう一つの文章ですが、以前宗教を信仰していた人、または他のものを練習していた人も大法を学びに来ました。宇宙の真相がますます現れてきたので、高次元の生命はなんと言ってもある程度の能力があり、この大法だけが真に人間を元に戻らせることができ、その他のいかなる修煉方法も人類社会で人間を元に戻らせることができないと彼らも気付きました。そのため彼らは、彼らに属する人、または分かっているようで分かっていないような人を促して大法に入らせました。彼らの目的は大法を利用して、自分が得たいその位置に戻るところにあります。彼らは実質上、自分のものを放棄することができず、私と大法を利用しているだけで、本当に大法の中で修煉したいのではありません。彼らが放棄できないのは、自分が今まで思っているいわゆるそれらの神、自分が執着しているもの、ひいては既に淘汰され存在していないものです。

彼らは人間のところにいるため、これらのことを何も知りません。大法を利用したいという心自体が罪なのです。私はあなたを相手にせず、手放すことができますが、なんといってもあなたはこの法に出会いました。心が不純ではありますが、本も読んだので、私はもう一度彼にこの機会を与えたいと思い、このことをはっきり明かしたのです。それでも自分の考えを変えることができなければ、あなたは永遠にこの機会を失います。機会を失ってはならず、時機は再びやっこないと私は言いました。大法は厳粛であり、修煉は厳粛であり、子どもの遊びではありません。欲しいと思えば得ることになるのでしょうか？ それを得たい時に得ることができるのでしょうか？ それはあなたが決めることではありません。失ったら永遠に失うことになります。

もう一つのことですが、学習者の中に若い弟子が多くいますが、生活上のことにくれぐれも気を付けるべきです。男女関係において、決して常人社会の墮落した行為へ逸れてはいけません。妻や夫を持つことができますが、それは正当なことです。皆さんが最大限に常人社会に符合しながら修煉するのは問題ありません。夫婦間の生活があるのは問題ないのです。もし夫婦でないのに、性行為があれば、それは最も汚いことをしているので、神に絶対認められないことであり、どの神にも認められないのです。ですから、くれぐれもこのようなことに気を付けてください。一人の人間の修煉の過程は一人の修煉者の歴史であり、無数の計り知れない神は大法弟子の一念、一挙一動を見ています。修煉者は圓滿成就に向かうと

いう決意があるのに、なぜこの関を乗り越えることができないのでしょうか？今日はこのくらいにしましょう。大会が円満に行なわれることを望んでいます。明日の午後皆さんの質問にお答えします。続けて交流会を行ない、学習者は自分の体験を発表してください。(拍手)

この二日間の法会から見ると、法会は確かに成功裏に行なわれました。このような法会はいくら開いても多すぎることはありません。学習者が法会を通じて受益し、法会の中で向上し、お互いの差を見出すことができ、これによって、皆さんが絶えず精進するよう促進されました。これは非常に良いことです。法会の目的は取りも直さずこういうことです。皆さんの修煉に役立つことが大法の法会の目的です。これ以外に、皆さんも耳にしたと思いますが、今回の法会にある目立った特長があります。つまり、白人の学習者の法に対する認識がますます深まりました。今回は白人学習者が自分の認識を最も深く語ったと思います。(拍手) これは彼らが絶えず法を学び、法に対してますます明確な認識を持つようになり、真に法に基づいて自分のことを語ることができました。これは非常に素晴らしいことです。今日の午後は質疑応答をします。それでは、皆さんの質問にお答えします。

弟子：大法の音楽「普度」を聞いた後、思わず涙を流してしまいましたが、これほど人を感動させる音楽はどこからきたのでしょうか？

師：昨日から会場で音楽を流しているので、皆さんも聞きましたが、この音楽から悲壮感を受けると思います。これは私たち大法の音楽です。大法の学習者がますます増えていることを考慮し、煉功の音楽テープを社会に普及させ、社会の出版部門に出版してもらいたいと思っています。そのため、著作権の問題が絡みます。ですから、私は二通り用意しました。一つは作者と著作権のことを相談すること、もう一つは音楽家である学習者に、私たちが必要としている煉功音楽を作曲してもらうことです。私は自ら学習者にどのようにすべきか教えました。彼は早速この音楽を作曲しました。彼は二曲作りしました。つまり、「濟世」と「普度」です。一方、以前私たちが使っていた音楽の作曲者もこのとき法を学んでおり、しかも無条件にこの音楽を大法に贈りました。(拍手) もちろん、これは功德無量のことです。ですから、これは非常に良いことだと思います。皆さんも続けて以前の音楽で煉功すればいいのです。なぜなら、皆さんは既にあの音楽を聞き慣れているからです。

皆さんへの影響も大きいので、以前の音楽で煉功すれば、何も変える必要はありません。これは非常に良いことです。しかし、この新しく作曲された音楽は非常に素晴らしく、それを聞いてみな非常に良いと感じましたが、あまりに悲壮なのです。あまり悲壮になると、人間は涙を流し、すぐ感動して心が動き、煉功の時静かになりません。ですから、この音楽は法会またはその他の大法のイベントの時に流したほうが良いと思います。これは大法の学習者が作ったので、これも大法の音楽です。気を付けてください！ 煉功の時、やはり今までの音楽を使用します。なぜなら、この音楽は学習者に大きな影響を与えたからです。

弟子：人によって坐禅する時間の長さは大きく異なりますが、圓滿成就の後、それによって違いが生じるのでしょうか？

師：ありません。どのぐらい高い次元まで修煉しても、圓滿成就した後の身体は人間のこの空間、時間及びこの空間の全ての要素に制約される身体ではなくなります。その時の身体に坐禅の影響は何もありません。坐っていても横になっても非常に自在なのです。

弟子：修煉の時間に限りがあるので、多くの弟子は時間が足りないのではないかと心配していますが？

師：この考えは正しくありません。これも一種の執着です。緊迫感があってもいいのです。それは、あなたが一日も早く向上し、できるだけ早く圓滿成就する原動力になります。もし、これらのことに執着していれば、きっと障碍になります。かえって、あなたの向上と修煉に影響します。ですから、何も考えないで、ひたすら修煉してください。修煉さえすれば、あなたはきっと圓滿成就に向かっていきます。肝心の時に乗り越えることができれば、あなたはきっと圓滿成就に臨むこととなります。皆さんは誰でも修煉の中で心を刺激する出来事にぶつかり、しかも、時にとっても激しく反映されてきます。一部の問題はあなたの周りやあなたの身体、或いはあなたが出会ったことに直接反映されませんが、他の人が出会った何かの出来事に反映されるかもしれません。或いは他人に悪口を言われたり、他の何かのトラブルに遭ったりするかもしれません。これらの出来事はみな、あなたが大法を学ぶかどうか、この法を修煉し続けるかどうか、あなたがどのように選択するか試しています。誰でもこのようなことにぶつかります。

これらのことにぶつかったら、つまりあなたを試しているのであり、あなたが

修煉し続けるかどうか、意を固めて大法の中で修煉できるかどうかを見ているのです。これは極めて重要なことです。皆さんがはっきり分かっているのならば、修煉の過程で、随時に皆さんに圓滿成就することができるかどうかの試練を一度与えます。大法に対して確固としていないため、それを乗り越えることができなかつたのかもしれませんが。または、大法に対する堅い決意があり、それを乗り越え、確固として乗り越えたのかもしれませんが。乗り越えても乗り越えられなくても、その出来事が起きた後、それを普通のことだと感じます。しかし、起きた当時、それは普通だとは感じませんが、それはあなたという人が圓滿成就に向かうことができるかどうかを試しています。これは極めて重要なことです。実は、幾らかの執着心を取り除くのは非常に簡単です。一旦その人が圓滿成就できると定められたら、残った執着心はゆっくり取り除けばいいのです。ですから、先ほど皆さんに教えたが、修煉という道のりで、皆さんはこのような出来事に遭うことがあります。正しく判断することができるかどうか、乗り越えられるかどうかは、全て皆さん自身にかかっています。異なる劫難の中で、誰かがあなたの心を刺激し、あなたを動揺させる時、あなたはきっと普段のように冷静にその問題に対処することができないのです。その時こそ、最も人を試すのです。

弟子：煉功音楽に外国語の同時通訳を吹き込み、先生の声も残しますが、これはいいでしょうか？

師：いいですが、同時通訳を吹き込まないほうがもっといいのです。吹き込んでも間違いではありません。新しい学習者には役立つかもしれませんが。しかし、説法のテープには通訳を吹き込むべきです。このことは既に行なっています。しかし、私の声がなくではなりません。ご存知のように、私の声はただ単に一つの声ではないので、私の声があり、同時に通訳の声もあるようにしなければなりません。こうすることによって、皆さんは法を聞き、法を得る過程で、華人の学習者が私の話している中国語を聞くのと同じことになります。

弟子：玄関設位まで修煉した時、天目は開いているのでしょうか？

師：開いている人もいれば、閉じている人もいます。人によって違い、人の異なる状況によって決めます。執着してはいけません。先ほど、白人の学習者の発表を皆さんも聞きましたが、彼は「私は何も見えませんが、この大法を堅く信じているだけです」と言いました。この人の修煉がどうなっているかはともかく、この話そのものは本当に素晴らしいのです。(拍手) 悟りによって圓滿成就します。

それは本当に素晴らしいことです。もちろん、天目の見える人が素晴らしくないと
言っているわけではありません。それぞれ自分の修煉状態があります。見えるべき
人なら、見させますが、そうでない人には見させないのです。見えるようになり
たいと思っている人がいますが、この考え自体が執着です。この執着がある限り、
見させません。一部の人は法の中で悟ることによって、はじめて元の位置に
戻ることができますが、しかし、彼はどうしても見たいと思っています。あなたの
圓滿成就と将来のためにも見させませんが、これはあなたのために考えている
のです。

修煉者として、あなたに与える全ての按排はみな、あなたのためになるように
することです。決して師父である私のためにはどうこうすることではなく、あなた
の圓滿成就のためなのです。(拍手) ですから、その執着心を取り除き、わずか
でも残さず全て取り除くよう期待しています。求めずとも自ずから得るのです。
それが欲しいと思う時、既に執着になりました。常人の中で求めていることを全
て放下できれば、皆さんが得るのは、常人には得られないさらに素晴らしいもの
です。常人のものを皆さんは放棄しているのに、なぜ見ることを求めているので
しょうか？ 求める目的は常人の中で使うことではありませんか？ はっきり言
って、まだ常人のことに執着しているではありませんか？ もちろん、「修煉の
中で天目が見えたら、何と素晴らしいことでしょう」とあなたは思っているかも
しれませんが、その「素晴らしいこと」の背後に執着があるかもしれず、そこに
他の原因があり、表面に現れてきたものほど簡単ではありません。私は皆さんに
真に責任を持つため、皆さんの最も深く隠れている心からその執着を取り除くの
です。

弟子：私はヨーロッパから来ましたが、一種の魔が私のウォーキングを妨害して
います。私のどこが間違ったのでしょうか？

師：多くの白人はジョギングやジムが好きで、またウォーキングが好きな人もい
ます。これは身体を健康にすることができると思っています。この作用があるで
しょうか？ 表面の身体のちょっとした軽い病気は防御することができます。こ
の防御ははっきり言って、正確に言えばつまり業力が表面に戻ってこないように
しており、業力を向こうの空間に留まらせています。一時的に表面の身体の病を
防ぐことができ、これはつまり病に対する抵抗力です。しかし、修煉者であれば、
今まで溜まっていた病の業力を全て掘り出し、それを外に押し出すことによって、
真に本質からあなたを健康にし、業力がないようにきれいにし、清らかにしてい

るかもしれません。そこで一種のアンバランスが現れ、あなたがしようとする
ことを止めています。こういう原因かもしれません。なぜなら、修煉は生命を真に
健康にする唯一の手段だからです。あなたはウォーキングを通じて自分を健康に
したいと思っていますが、実ははっきり言って、あなたはまだ大法を固く信じて
いません。大法よりウォーキングのほうが身体を健康にすることができると思っ
ています。またはあなたもそこまで深く考えていませんが、ただウォーキングに
慣れているだけです。この習慣は既に一種の自覚していない執着を形成してしま
ったかもしれず、あなたにそれを取り除かせなければなりません。あなたはこの
執着の心を取り除くことを魔難または妨害だと思っているかもしれませんが、な
ぜ逆の角度から考えず、それが何かの執着を取り除くためのものであると思わな
いのでしょうか？ 朝または夜のジョギングの時間を煉功に使えば、もっといい
のではないのでしょうか？ いかなる問題にぶつかっても、自分にどんな問題があ
るか考えることができれば、最も速く向上できます。問題に遭った時、自らを省
みれば、問題の所在を見出すことができるかもしれません。

弟子：本を読む時、身体が消え脳だけが本を読んでいるといった静功の状態が現
れるのでしょうか？

師：現れる可能性があります。なぜなら、法なのでどんな状態でももたらすこと
ができ、どんな状態も現れてくることあり得ます。

弟子：法を広めることの参加に抵抗がありますが、どうしたらいいのでしょうか？

師：つまり、法を広める仕事をあなたはしたくありません。それなら、その抵抗
の根源をみるべきです。実は皆さんに教えますが、誰もが法を広めることに参加
しなければならず、またはこのようにしなければならないではありません。こ
のような規定はありません。私はこのように皆さんに要求していません。しかし、
学習者として、自分が法から受益し、とても素晴らしいと思ひ、この素晴らしい
ものを親族や友人、さらに多くの人に教えることは、大いなる善の行為です。こ
れは自分の心からそうしたいのであって、自らそうしたいと思っているのです。
もし自分がそうしなくては、無理にすることはありません。ですから、そう
したい気持ちがある時にすればいいのです。私たちは慈悲を重んじているので、
みな他の人に良いものを与えようとしています。この世において、他の人にどん
なものを与えても長く持ち続けることはありません。お金を与えれば、すぐ使い
果たされてしまいます。そうではありませんか？ 相手にいくら良い物を与えて

も、永遠に持ち続けることはありません。人間はこの世に来た時、何も持って来ておらず、去る時は土に埋もれ何でも腐ってしまいます。何も持って行くことができず、去る時も何も持って行けません。それでは、どのようなものなら永久に持ち続けるのでしょうか？ 人に法を与えることだけが永久に持ち続けることができます。ですから、これは最も貴重なものです。逆に言えば、法を広めることは最も神聖なことです。もちろん、全ての人が必要しもこのようにするとは限りません。無理にせず、したければすればいいのであって、したくなければ、それも間違いではないと私は言いたいのです。

弟子：白人に法を得させるために、『法輪功』を先に読ませるのか、それとも『轉法輪』を先に読ませたほうがいいのでしょうか？

師：各自の状況に応じて行なえばいいのです。統一したやり方もなく、規定もありません。『法輪功』を先に読ませたほうが彼らは理解できると思えば、そうしていいのです。これらの学習者の根基がわりと良く、認識も比較的高ければ、直接『轉法輪』を読ませてもいいのです。皆さんはそれぞれの状況に従って行なえばいいのです。これはとても簡単なことです。何かの規定はありません。

弟子：師父が「佛性に漏れなし」という経文の中でおっしゃった「本性」と、「佛性」という経文の中でおっしゃった「先天的な善良な本性」との間はどのような関係でしょうか？

師：両者の間には関係していると言えますが、関係していないとも言えます。なぜなら、あなたの本性はあなたの次元によって決められた境地の現れであり、つまり、あなたが所在している次元の境地の現れであり、またはあなたが先天的に持っている次元と境地における大法の基準の現れ、体現なのです。修煉の中で現れることがあり、或いは、修煉の中で絶えず向上し、異なる次元でのさらに高い認識が現した状態が絶えず現れます。それがあなたの本性です。しかし、私心のため自我のためという特性は、宇宙の長い歳月とともに、皆さんが徐々に汚染されたものです。宇宙天体全体が全て法からずれてしまったら、全てにこの現象が現れ、お互いに誰も気付かなくなります。例えば、人間が常人の流れの中において、人類社会が既に相当恐ろしいところまで墮落したのに、中の生命は誰も感じ取れず、かえってこの全てが非常に素晴らしいと思っている、ということと同じ道理です。ですから、皆さんは修煉によって、異なる境地の次元に到達し、自分自身の本性を再び現すだけでなく、同時に異なる時期、異なる次元における歴史の長

い歲月の中で、異なる境地の中で汚染されたものを取り除かなければならず、全て取り除かなければなりません。私が皆さんに与えたいのは、皆さんを天地開闢以来最も純粹で清らかな境地に到達させることです。(拍手)

弟子:第五式の功法をする時、三つの加持の動作をそれぞれ二十分ずつしますが、これで師父の号令と合わなくなるのですが？

師:煉功テープの時間より長く煉功することができれば、つまり、煉功音楽が終わってもまだ煉功することができれば、続けてすればいいのです。音楽を聴かなくても同じです。音楽を聴く目的は、音楽であなたの雑念を代えるためです。さもないければ、あなたは何でも考えてしまい、あれこれ考えてしまいます。また、この音楽は大法の音楽なので、その背後に大法の内涵と偉大な佛法もあります。ですから、音楽を聴いていると、佛楽、佛の声を聞くのと同じようになります。この作用が働いています。もし入静することができ、雑念を抑えることができれば、音楽を聴かなくても同じです。さらに長く煉功できれば、音楽を聴かなくてもいいのです。

弟子:入定と入静との間はどのような関係でしょうか？

師:入静は、静かになって何も考えないで煉功することです。入定は、定に入り、形や我をも忘れる状態になることです。しかし、この時、自分が煉功していることが分かっていなければなりません。形を忘れるというのは、身体がなくなったかのように感じることであり、我を忘れるというのは、煉功以外のことを何も思い出すことができない状態のことです。これは非常に良いことで、定に入ると言い、入定とも言います。

弟子:常人社会の状態に符合して時間が長くなれば、その流れに従ってしまう恐れがありますが？

師:そうです。ですから、古い学習者であれ、新しい学習者であれ、煉功点で煉功し、法を学ぶように私は言いました。この環境はあなたをきれいに洗うことができ、常人に汚染された言動と観念を絶えず洗い流すことができます。

弟子:煉功の時、周りがとても静かなので、突然音がすると、いつも驚かされています。

師：大丈夫です。他の気功をしていると、驚かされてどこかが悪くなったり、気が頭に上って下りてこなかったりといろいろ言うのですが、私たちにはこの問題は存在していません。しかも誰でもこのことに遭います。煉功すると、あなたを邪魔する音が聞こえてきます。遠くの車のクラクション、隣近所のざわめき、ひいてはあなたの家から突然出てくる音などは、みなあなたの邪魔をします。これは誰も免れることができません。人間には業力があり、業力があれば魔難に遭います。しかし、この現象は長く続きません。多くの場合、煉功の初期段階に現れてきます。しばらく修煉したら、この現象はなくなるはずですよ。

弟子：修煉の起源について、お話をしていただけませんか？

師：あなたが知りたいことは本当に大きいですね。今期の宇宙天体は最も根本的なものではなく、私が言っている宇宙の概念がどれほど大きいか、あなたには分からないのです。皆さんが想像している宇宙の概念と、私が皆さんに説いている宇宙の概念はいくら大きくても、やはり非常に小さな範囲に留まっています。ですから、修煉をさかのぼるのであれば、それは不可思議で想像もできないことあり、あなたにとって何の意義もなく、皆さんの修煉とも関係ありません。

弟子：先生が伝えておられるのは宇宙の法ですが、なぜ法輪世界は高次元にないのでしょうか？

師：なぜ法輪世界は高次元にないといけないのでしょうか？ 私は既に言いましたが、ここでもう一度言います。私がここに座っていれば、私は人間であり、私を人間と見なせばいいのです。私は皆さんと同じように、ご飯も食べるし寝ることもします。もちろん、全ての人がそれぞれの生命の源を持っているので、私も私の源があります。私がこのことを行ないに来る際、最後に留まった場所が法輪世界です。法輪世界以外に私が滞在したことのある、または創造した異なるさらに高次元の世界もあります。このことを気にせず、こういうことに頭を使わないでください。

弟子：とても高い次元の神は人間の身体を持っていませんが、そこの神には佛と道の区別があるのでしょうか？

師：私はある経文の中で、宇宙がとてつもなく広いと書いたのを覚えています。

現在の佛の概念は、皆さんの今までの佛に対する認識であり、それは非常に小さなものです。実は佛の概念はとても大きいのです。しかし、大きくても、宇宙の範囲をそれほど超えていません。道の概念も膨大な宇宙を覆いきれないのです。つまり、佛も道もある程度の次元になってから、もう存在しなくなるのです。私が選択したのは佛の形象であり、以前、私は身体の形象を持っていませんでした。これはかなり高い次元の話です。以前、皆さんに教えたことがあります。私が佛の形象を選んだのであって、私は佛家の基点に立って宇宙大法を伝えているのです。実は私は全ての形象を備えています。本を多く読んでいけば、このことが分かるはず。私は既にこのことについて説きました。

弟子：私たちは師父の弟子であり、修煉して成就したら最も高い次元に師父がいらっしゃるのを知ることができるのでしょうか？

師：知っている人がいますが、そういうことにすぎません。そうでない人もいます。上の次元の全てがあなたに顕現されることはなく、あなたは何も知ることができません。ですから、あなたの概念では上に何もなく、あなたより下の次元を見ると、一目瞭然で何でも目に納めることができますが、あなたより上の次元には何もないということです。その境地に現れた状態は、あなたが今理解できることではありません。上の次元にも法があり、私は皆さんに高い次元の理を説いていますが、ただ人間の言葉で説いているだけです。その時になれば、皆さんが知る法理、聞いた法理は決して私が現在皆さんに話している言葉ではありません。全ての観念に変化が生じ、上の全てはあなたにとって存在していないかのようです。さらに高い次元があるかもしれず、少なくとも師父が上にいるのではないかと皆さんは考えますが、それだけです。ひいてはこれらのことまで薄れていくことさえあります。なぜなら、それがあなたの果位と次元によって決められることだからです。自分の次元まで達したら、あなた以下の次元に対してあなたは全ての能力を持っていますが、あなたより上の次元に対しては、いかなる能力も持っていません。

弟子：健康博覧会には、必ず大法輪の図を掛けなければならないのでしょうか？

師：健康博覧会は大法に対する学習者の熱意から、多くの人々に法を得て欲しいため参加したのです。法輪の図を掛けるかどうかには、人間の観念で考えないでください。このようなことは、私は一貫して情状酌量して行なうべきだと思います。いかなることも行き過ぎないようにすべきです。なぜなら、私たち

は常人社会の形式を利用して修煉しているため、最大限に常人に符合して修煉すべきです。この言葉はあなたの修煉方式に現れるだけでなく、法を広めること、煉功やあなたの全ての行為にこのことを現して、初めてより多くの人に理解され、人々に法を得させることができるのです。あなたが宗教や迷信的なことをしていると、人々に思われないようにしてください。人々が法を得ることを阻害する要素にならないでください。ですから、どんなことでも程よく行なうべきであり、この点において私たちは理性的にならなければなりません。

弟子：弟子が圓滿成就したら、また師父に会えるのでしょうか？

師：まだ圓滿成就もしていないのに、もう圓滿成就後のことを考えていますね。現在は一心に修煉すべきです。以前、私は皆さんにこのことを話したことがあります。つまり、私は全ての境地と次元に現れることができ、上の次元から下の次元までの全ての身体の形象を持っているのです。これは皆さんが理解できることではありません。人間の所に来たければ来られるのです。私は「蒼穹は無限に遠く、念を巡らせれば目の前にやってくる……」という詩を書いたことがあります。いくら大きくても、異なる次元の生命にとって、自分の次元を超越することはあり得ないことで、自分より下の次元を通り抜ける場合、時間の間隔があり、つまり時間がかかり、時間が必要なのです。しかし、師父にとって、いかなる時間の概念も私を阻むことはできません。もちろん、これは現在皆さんが理解できることではありません。

弟子：師父は私たちを濟度するためにどうして何回もこの世に転生されたのでしょうか？

師：在席の人は全員が人間というわけではなく、同じ時期に地球に来たのでもありません。もし私が一回しか転生しなければ、その後地球に来た人は私と縁が結ばれなくなりますが、どうしたらいいのでしょうか？ 多くの複雑な要素はみなこのことを行なうための準備です。しかも、私は異なる国、異なる民族に転生したことがあります、私は幾世か前にあなたの国の皇帝、国王、将軍、出家人、文人、勇士になっていたかもしれません。(拍手) 冗談を言っていると思えばいいのですが、私は因縁関係を話しています。

弟子：海水は佛の一滴の涙ですが、なぜ佛の涙が私たちの空間に現れたのでしょうか？

師：天上の神が地球に落ちて人間になることができる、ということと同じです。これは理解できると思います。海水は佛の涙の一滴ですが、海水を再び天上に戻すとすれば、佛は決してそれを受け取らないのです。なぜなら、それがあまりにも汚いからです。

つまり、海水は既にこの境地の物質になったからです。

弟子：私はまだ子どもなので、両親は私が修煉することを許してくれません。どのようにしたらいいのでしょうか？

師：もしあなたが既に物事の判断がつくのであれば、自分で決めるべきです。修煉するかどうかあなた自身のことです。もしあなたが真に修煉したいのであれば、ご両親は大人を相手にするようにあなたに障害をもたらすことはないと思います。肝心なのは、あなた自身の決意が固まっているかどうかです。誰もが修煉を始めようとすれば魔難に遭い、妨害に遭うのです。昨日ある学習者が次のことを話しました。彼は法会に参加したいのですが、学校の門が閉まっていたので、学校に置いていた住所のメモを手に入れることができなくなりました。これは彼が遭った妨害です。誰もが法を得る時、妨害に遭いますが、この妨害は既に非常に小さくなって現れてきます。これほどの妨害も突破することができなければ、それではいけません。法は簡単に得られるものではありません。皆さんは今ここに座っていますが、この法のために皆さんがどれほどの代価を払ってやっこの縁を促成したか分かりますか。異なる歴史の時期に多くの紆余曲折を経験してやっこの法を得たのです。中に皆さんが知っていることもあれば、知らないこともあります。法に出会ったその瞬間、あなたはそれが非常に自然なことだと感じていますが、実は法を得られるその時間と場所を促成するには、既に多くの紆余曲折を経験しました。それらのことをあなたは知らないのです。

弟子：北京の学習者が作った大法を翻訳する時の中英文対訳の小冊子がありますが、どのように扱うべきでしょうか？

師：このように言うしかありません。この人は大法のために良いことをしたいのですが、この本は決して出版してはいけません。なぜなら、いかなる大法の言葉に対しても、常人の定義を下してはいけないからです。ご存知のように、出版された全ての大法の本は全て私が説いた法であり、全て私が説いたので、出版され

た本は私が自ら整理したのです。私が整理したものでなければ、或いは私の同意を得ていなければ、勝手に出版してはならず、それは私のものでもなく、我々大法のものでもありません。誰も勝手に資料を整理してはいけません。以前私は既にこのことについて説きました。もちろん、学習者の目的はいいのですが、こういう小冊子は回収すべきです。

弟子：今期の人体は最も素晴らしいので、誰もが手に入れたいのですが、これは法を正すことの按排と関係あるのでしょうか？

師：今期の人体は最高のものではありません。ご存知のように、宇宙の中世紀の人体は最も素晴らしかったのです。それは今回の人類文明の中世紀を指しているわけではありません。これは皆さんの概念の中に納められるようなものではないので、これらのことについて多く考えないでください。

弟子：私の考えは極めて悪いものに制御され、本を読んで法を学んでも改善がみられないようです。師父はまだ私を濟度してくださるのでしょうか？

師：私は二つの方面から話します。もしあなたが私の最近の経文に書かれたような人で、以前私を師父とせず、或いはあの経文に書かれたようにずっとこれらのものに制御され、専一でない人であれば、自分の主意識を強くしなければなりません。どんなことが起きても、動ぜず、それらのものがあちこち動いても、どこそこが痛くても気にせず、ひたすら法を学び、修め、決意が固まれば、全てが変わります。修煉者は身体が優れないと感じていれば、このこと自体は良いことではありませんか？ もし修煉しなければ、あなたの身体にある良くないものを刺激することもあります。経文が既に出されましたが、これは皆さんに機会を与えています。それでも自分を変えたくなければ、あなたはこの機会を失います。なぜ身体はここまで変わったのでしょうか？ あなた自身がもたらしたのです。あなたはやはりこの状態から悟らなければなりません。「私が後悔したら、師父は何でもすぐ変えてくれる」と思うのであれば、これではいけません。これは修煉ではありません。

修煉は厳粛なことです。絶えず自分の心を固め、絶えず法を学び、認識していく過程で、徐々に変わってきます。今まであなたは真に大法の中で修煉していませんでした。本を読んでいましたが、本を読む目的はあなたの身体を調整し、あなたが思っている魔難を排除するためです。私が大法を伝え出した目的は、人々

を濟度するためであり、人々を修煉させ圓滿成就させるためであって、人間の何かの難を解決したり、病気を治したり、人間が良くないと思っているものを取り除くためではありません。ですから、あなたが本当に修煉したいと、大法に対する心を固めることができた時、はじめてあなたの全ては変わります。これらのことのために大法を修煉しているのだと言うのであれば、あなたは何も得られません。なぜでしょうか？ 私たちは人間に慈悲がないのではなく、私が面倒を見ているのは学習者であり、修煉なのです。人間はやはり自分が造った業を自分で返さなければなりません。(拍手)

弟子：師父に明示していただきたいのですが、何が原因で異なる次元の宇宙生命は大法に対して、異なる反応をするのでしょうか？

師：これはあなたの修煉といささかの関係もなく、これらの天機を私があなたに教えてもいけません。皆さんに教えますが、宇宙全体は長い歲月の中でこの宇宙大法からずれてしまいました。全てずれてしまったので、自分がずれたと知る生命は一人もいません。正されてからやっと分かるようになるのです。人間と同じように、今日ここに座っている修煉者と同じです。今振り返って常人を見れば、常人がどれほど悪くなったか分かりますが、修煉する前は全く気付いていなかったと同じ道理です。異なる境地に異なる境地の謎が存在しています。

弟子：今後の億万年の生命は時々刻々、内に向けて探すということをしっかり覚えなければならないのでしょうか？

師：これは人間の修煉状態であり、神の状態と全く別のことです。修煉は生命にとって存在する目的ではなく、元へ昇華していく方法にすぎません。人間の考えで神のことを考えるのは可能でしょうか？ 全く別のことです。人間よ、私が皆さんの人間としての一面を大事しているのは、皆さんが修煉することができるからであり、人間そのものを大事しているわけではありません。神にとって人間は汚いものであり、私にとっても宇宙の中のなくてはならない、最も低い次元にすぎません。ですから、皆さんの考えはいつも人間のこのところに局限されており、人間の云々を考えています。人間の考えで神のことを考えるのであれば、全く考えることができず、神に人間の考えがないのと同じ道理です。

弟子：なぜ不純な目的を抱く人が法を学んでも、病気が取り除かれ、健康が促進され、福を得ることができるのでしょうか？

師：これが最も低い次元での大法の体現だからです。宇宙大法は人間に修煉を提供するためのものでなく、異なる次元の生命に異なる次元の生存環境を切り開くためにあります。人間という最も低い次元での状態、その生存環境の中で、法のこの次元での現れにあなたは接触しました。もちろん、その人は修煉しているわけではありません。ただ普通の人なのです。人間にとって最も良い状態は病気がなく、健康で、福があるという状態です。あなたは法と接触しましたが、これしか得ることができません。

弟子：「大法が人類の前に現れる時、皆さんが失うのはこれだけではありません」と師父はおっしゃいました。

師：そうです。宇宙はどれほど膨大なのでしょうか！ 異なる次元と境地にいる神でさえ、天の規則に違反したら打ち落とされるのです。長い歲月の中で、神は悪くなったらその境地にいらなくなり、境地を下げられてしまいます。非常に悪くなった場合、人間の次元に打ち落とされます。人間にも及ばなくなった場合、人間にもなれず、ひいては消滅されてしまいますが、人間はなおさらではありませんか？ 皆さんが失うのはこれだけではないという意味です。現在、人間社会での法の現れは、皆さんが修煉している現象だけで、その威力はまだ人間社会に現れていません。本当にこの世で現れる時は、つまり人間の法を正す時です。その時になると、さまざまな悪い人が淘汰されるという問題がやってきます。どこに淘汰されるかは、その人がいるべき場所によって決められます。

弟子：修煉には終わりがあるので、もし終わりになった時、まだ圓滿成就まで修煉していなければ……。

師：そこまで余計に考えてどうしますか？ 考えていれば即ち執着であると私は再三強調してきました。それを放下し考えないでください。あなたに与えた修煉の時間はきっと十分間に合います。しかし、時間を大事にしなければいけません。ゆっくり修煉していれば、時間が足りるでしょうか？ 足りません。法は厳粛なものだからです。

弟子：修煉者の血はとても貴重なものなのに、どうして蚊に吸わせてもいいのでしょうか？

師：修煉の中で、あなた自身の業力が外に放出されている時、その血がどれほど汚いかご存知でしょうか？ 蚊が吸ったのは全て汚いものであることをご存知でしょうか？ もちろん、私たちは修煉しており、身体がますます健康になり、ますます常人より良くなっていますが、次のような場合もあり得ます。つまり、あの蚊は前世にあなたに殺された生命であるかもしれないので、あなたは蚊に償わなければならないのではありませんか？ しかも、吸われた血も決して貴重なものではありません。いつも自分が損をしたのではないかとばかり考えないでください。自分の造った業力をどのように返すかなぜ考えないのでしょうか？ 前世に多くの人を殺し、多くの悪事を働いた人が今日修煉しようと思ったら、蚊まであなたを刺してはならず、何も償わずここから去って行ってしまうことはあり得るでしょうか？！ もしあなたが修煉のとても良くできている人、または業力の少ない人であれば、蚊はあなたの近くに寄って来ません。蚊は周りの人を刺しても、あなたを刺しません。あなたの身体に黒い業力がなければ、蚊はこのような陽性の強い環境を恐れて入って来ません。陰性の環境があるから、蚊はやって来ました。その環境が蚊に合って、蚊がその環境を好きになり、あなたの血が蚊の基準に合ったから、蚊はあなたの血を好んで吸いに来ます。あなたの血が清らかであれば、蚊はかえってそれが良くないと思います。この道理ではありませんか？
(拍手)

弟子：他の空間の物質がみな実在しているのに、どうして心に従って変化するという問題があるのでしょうか？

師：そうですよ。一途に思い込まないでください。私は人間の考えまで物質であると話したことがあります。あなたの考えがものを成すことができ、あなたが言った話、言ったことはみな形のあるものです。ただあなたに見えないだけで、全てが物質です。人間の目から見る物質と神の目から見る物質は異なっています。人間に見える物質の存在形式は真実ではなく、動かないものでもありません。これが宇宙に存在する真実の現れです。人間の考えがあまりにも悪くなったので、考えたことはみな邪で悪く、善ではなく、求める心や私心、情などです。ですから、人間が考えたのはみな虚像です。あなたはいつも一つの方向から一途に思い込んでいます。なぜ佛の智慧が大きいのでしょうか？ 佛の考えはあなたの考えと違って、佛の容量は大きく、一つの方面から物事を考えているではありません。

弟子：私は西洋の学習者です。『轉法輪』の中で「愛」が地位を失ったかのように

感じています。

師：あなたに教えますが、イエス、聖母マリアとエホバが言った愛は人間が理解している愛のことではなく、慈悲のことです。現在の人類は西洋の言葉の中に「慈悲」という二文字がないので、「愛」という文字で神が言ったことを代替しました。この愛は神にとって汚いもので、慈悲こそ神聖なものです。愛のために、人間は性欲に溺れ、性の乱れに溺れています。また、愛のために人間は多くの良くないこと、神に許されないことをしています。愛の中には、人類が素晴らしいと思う助け合いがあると同時に、良くない負の一面もあります。それに対し、慈悲は完全に良いものです。ですから、以前西洋の神が言った愛は、私がもう一度皆さんにはつきり教えますが、それは「慈悲」と言い、この世の人間が言う愛ではありません。これはあなた達の文化に慈悲という概念がないからです。あなた達の古代の人間は神が言ったことを「愛」という言葉で書き残しただけです。

弟子：西洋人にとって、「憑き物」が非常に奇怪で分かりにくいもののようです。どのように西洋人に「憑き物」を説明するのでしょうか？

師：西洋社会にも六道輪廻が存在しており、人間にとってこれは避けられないことです。ただ、イエスは地獄だけを説き、輪廻を説きませんでした。イエスは人間に罪があると説きましたが、人間に業力があるから罪があると説きませんでした。これは人類の文化の違いによるものです。憑き物のことは西洋の文化にないわけではありません。『新約聖書』の中にイエスが人間に取り憑いている鬼を払うと書いてあるのを覚えていますか？ 『聖書』の中に記載があります。それらの鬼は「これはあなたイエスと関係ないことで、あなたと何の関係もない」と言いましたが、イエスはそれでもその鬼を追い払うことにしました。この点から見れば、あなたは自分の文化に対してそれほど詳しくないようですね。

弟子：「殴られても殴り返さず、罵られてもやり返さない」と要求されていますが、その時、「あなたたちがこのようにするのは間違っています」と相手に言ってあげてもいいのでしょうか？

師：「殴られても殴り返さず、罵られてもやり返さない」、これは修煉者としての行ないに対する最も適切な表現です。相手があなただけを殴ったり罵ったりしたのは、いざこぎのためであり、つまりトラブルがあるからです。「私を殴るべきではない」と相手に言ったら、余計に叩かれるかもしれません。相手と是非を争うと、彼と

のトラブルの中に陥ってしまいます。その人を相手にしなければ、トラブルも終わってしまいます。ですから、「殴られても殴り返さず、罵られてもやり返さない」というのは最も適切なやり方です。(拍手) これをやり遂げた学習者がいますが、私に言わせると、この学習者の修煉はとてもよくできており、本当に素晴らしいのです。殴られても殴り返さず、罵られても言い返すべきではないと知っていますが、心の中でどうしても気になっており、「私を殴るべきではない」とやはり言うってしまう学習者がいます。これはやはりあなたが心の中で気になってしまい、借りを返したくなく、返しても心の中で納得していないからです。どうしても一言言って自分を慰めています。私の話には弁証法的な関係があります。私は白人の学習者や黒人の学習者に聞いてみたいのですが、私がこのように話して皆さん分かるでしょうか？(拍手) よかったです。皆さん、ありがとうございます。

弟子：私は哲学と文学を教える者です。哲学と文学は常人社会に有益であると思っています。

師：皆さんに教えますが、私たちは最大限に常人社会に符合しながら修煉しているので、すべき仕事をやはりしてください。皆さんは間違っていない。あなたの仕事と修煉は別々になっているのです。ただ、あなたの修煉の中での心性はあなたの仕事に表れることがあります。誰もがあなたを良いと言い、大法を修煉する人は本当に良いと言います。あなたの表れは本当に良いからです。将来その仕事はどういう位置になるかについて、全宇宙が法から離れ、大法の他に人類社会のどこにまだ浄土があるのでしょうか？ どこにまだ清潔なところがあるのでしょうか？ 将来のことを私は言いたくありませんが、何としても人類社会の全てがそれほど良くなりました。人間だけでなく、未来において良くなることのできないものは淘汰されるかもしれません。現在、自分のしている仕事を構わずしてください。なぜなら、法はまだ人類まで正しておらず、現在法は皆さんを済度しているだけだからです。

弟子：家庭の環境がずっと良くありません。その間、親が大法に対して不敬なことをもたらしました。これは弟子が業を造っているのでしょうか？

師：このように見てはいけません。二つの角度からこれを見るべきです。一つは、自分に業力があるので引き起こされたかもしれません。もう一つは、自分の修煉に取り除かれていない執着心があるので、引き起こされたのかもしれません。両方の原因がありますが、異なる人に大法のことを知らないので現れた異なる状態

もあります。

弟子：「六道輪廻」を信じないキリスト教徒がいます。

師：悪事をしたら地獄に落ちるとイエスは言ったのではありませんか？ 私は皆さんに次のことを教えるしかありません。『新約聖書』と『旧約聖書』を読んだ人がいるかもしれませんが、特に『新約聖書』は弟子によって記録されたもので、一段落ずつ記録されたのです。この種の記録は思い出しながら行なわれたので、つまり、イエスの話を聞いた人が記憶を辿りながら記録したのです。しかし、皆さん考えてみてください。イエスが一生の間に言った話は一冊の本にある内容しかなかったのでしょうか？ それほど少なかったのでしょうか？ イエスは多くのこと、多くのことを話しましたが、多くの話は人々に忘れられ、記録されませんでした。なぜ記録されなかったのでしょうか？ 他の原因から言えば、人間にはそれぐらいしか知る資格がなかったのです。

如来の次元で説かれた佛法も全て人間に知られてはいけません。釈迦牟尼がこの世で説いたのは羅漢法ですが、それでも、人間はこの程度しか知ることができません。イエスの言ったことに従って行なえば、それに従った人間は十分天国に行くことができます。ですから、神はイエスの話をそれほど多く残させませんでした。東洋の経書は非常に多いのですが、それも断片的で完全に揃っていない回想による記録です。これは間違いのないことです。他の方面から言えば、東洋人から転生してきた白人がいますが、たとえ西洋にいる時、六道輪廻がなくても、東洋人に転生したら輪廻転生する可能性があるのではありませんか？ しかも、西洋人と東洋人の多くは往復して転生しており、つまりお互いの間を転生しています。東洋文化に対して親しみを持つ人もいれば、西洋文化に親しみを持つ人もいます。これはその人が異なる時期で転生した時に残った痕跡によってもたらされたことです。しかし、今自分が白人であったり、黄色人種や黒人であったりするので、本来あなたがどの人種の人なのか断言できません。

弟子：年寄りには視力が良くないので、いつもテープを聞いています。これは大法を読むのと同じ効果が得られるのでしょうか？

師：同じです。本当に心から法を学べば、目に変化が現れるかもしれません。聞くことと読むことはみな同じです。自分の年齢をどうこう言うべきでなく、それもあなたの執着と障碍です。大法に年寄りとは若者の区別はなく、ただ修煉すれば

いいのです。当時私が北京で法を伝えていた時、学習者は私のことを大師と呼んでいました。そして、会場から七、八十歳くらいの人からメモを渡されました。

「あなたはなぜ大師と呼ばれているのですか？ 私はもうこの歳なのにまだ大師と呼ばれていません」。(笑い) 私は彼にこう説明しました。私は自分のことを大師と称していません。皆さんが私を尊敬しているから、大師という言葉を考え出してそう呼んだのです。実は私のことを何と呼んでも構いません。名前や先生、さん付けで呼んでも何でもいいのです。私はこれらのことを大事に思っておらず、私はいかなる形式も重んじていません。実ははっきり言うと、人間が言う年寄りと若者は修煉者に当てはまらないのです。その人の元神が何歳であるか分からないからです。元神が本当のあなたです。この考えからすると、宇宙の中で私の年齢が最長であり、皆さんの中に私より年上の人はいません。(拍手)

弟子：「論語」の中に『轉法輪』の全ての内容が含まれていますが、なぜ「論語」と名付けたのでしょうか？

師：孔子が『論語』を書いたと皆さんはご存知ですが、その概念と内容は全く違います。私は佛法を人間の言葉で論じているため、「論語」と名づけました。(拍手) 他でもなくこの概念です。人間の言葉は法に使われており、人間の言葉をどのように使ってもいいのです。物事を説明し、皆さんを済度し、法を説明することさえできれば、私はこのように人間の言葉を使います。ですから、私は現代の規範された言葉と語彙に制限されていません。

弟子：癌を治療する病院で仕事をする大法弟子は、病院で法を広めようとしていますが、これは適切でしょうか？

師：出発点は何であるかを見るべきです。例えば、あなたは大法をもって人の病気を治したいと思っているかもしれませんが、大法は全ての正しくない状態を正すことができます。人間が病気になったのは正しくない状態ですが、しかし、大法は人間の正しくない状態を正すためのものではありません。大法が人間に伝えられたのは、人を済度するためであり、宇宙の中で異なる生命のために異なる生存環境を切り開いた偉大な天の法です。(拍手) 大法をもって人間の病気を治療したいのであれば、この心は正しくありません。そうではありませんか？ 大法は癌を治すことができるので、それを用いて病院で癌患者を治療しようと思っはいけません。それは人を済度するのではなく、大法をもって病気を治療することなので、それではいけません。

私たちに慈悲がないのではありません。皆さんにお話しましたが、イエス、聖母マリア、またイエスと聖母マリアよりも能力のあるエホバや、東洋人が信仰する宗教の中の佛陀が手を一振りするだけで、小さな地球に病気の人が一人もいなくなります。神はどうして慈悲をもって人間のためにこのことをしないのでしょうか？ 人間は自分で悪事を働いているからです。今日病気を治してあげたら、明日また悪事を働きます。もちろん、人間を懲罰するためではなく、宇宙の理は全ての生命を量っています。人間自身が悪事を働いたので、自分で償わなければなりません。たとえば、あなたが人を殺しても、佛があなたの業を消してしまえば、あなたは思うままに人を殺していいのでしょうか？ 人を殺したら、業力がやってきますが、佛がすぐあなたの病気を消してあげるのであれば、これはしていいことでしょうか？ 人間は悪事を働いたら自分で償い、それに対して責任を持たなければなりません。往々にして、人間が悪事を働いたら身体での最大の表れは病気で、病気をもって人間を懲罰するのです。これは私が言っているだけでなく、イエスも人間に罪があると言いました。人間になぜ罪があるのでしょうか？ 人間の身体に業力があるからです。西洋文化に業力という言葉はなく、この表現はありません。ですからイエスは「罪」という言葉で概括的に説明しました。実は業力があるというのは、即ち罪があるということではありませんか？ 罪がなければ、どうして業力があるのでしょうか？ これは同じ道理です。

弟子：圓滿成就して各次元に行ったら、私たちの身体に師父が授けてくださった印があるのでしょうか？

師：修煉して既に圓滿成就したら印を授けるということはありません。人間が迷いの中で、ここに落ちたから印を授けたのです。圓滿成就したら、あなたは完全に独立した個体になり、自分の意思で全てを決める偉大な神になります。私が皆さんに与えたのは束縛ではなく、皆さんに与えるのは偉大な神なのです。(拍手)

弟子：法輪大法を学んでいない人が「普度」、「濟世」の音楽を好んで聴いています。師父にお尋ねしますが、彼らに聞かせてもいいのでしょうか？

師：大丈夫です。もちろん、私たちの大法の音楽は有益なのです。

弟子：現在の男女平等という社会観念がとても強いので、女性の弟子として、どのようにしたら、柔でありながら、勇猛邁進することができるのでしょうか？

師：現在の人間は女性がますます解放され、個性がますます強くなっていると言っていますが、実は皆さんは善の一面に導かれているのではありません。強さは人間の外見に現れるのではないと私は思います。普段やさしく、本当の女性らしくしていれば、あなたの能力によって得るべき全てを得ることができます。この道理が皆さん分かりますか？（拍手）つまり、皆さんは女性なので、必ず女性のように、善良でやさしくなって、はじめて男性からの尊敬と愛を得ることができます。もし善良でやさしくなければ、男性が皆さんを見て恐れてしまうので、（笑い）皆さんは得るべき愛と家庭の温かさを得ることができません。逆の角度から言えば、女性のことばかり責めてもいけません。男性の皆さんも男性らしくなるべきです。しかし、地球上の現在の社会がみな悪くなったので、私は弟子にこのように要求するしかありません。これは社会においてできないことです。五十年代以前の西洋社会では、その時の男性はとても紳士的で、女性を尊敬していました。女性が女性らしかったので、男性は好んで女性を助け、尊敬し、やさしく見守っていました。女性も女性らしく自分の夫を大事にしていました。それが人間の行為です。しかし、今日皆さんはそれを変異させてしまいました。

東洋社会では、女性が必要以上に強くなっているため、男性を女性のようにしてしまいました。皆さんに教えますが、皆さんは心の奥底から夫が強くなることを望んでいますが、実は内心で夫の上に立つことを願っています。これは矛盾しているのではありませんか？ 社会の形式が全てこのようになったら、男性は頭を上げることができるでしょうか？ 胸を張ることができるでしょうか？ 一人前の男性となり得るでしょうか？ 一つの家庭に二人の世帯主があってはならず、一つの山に二人の王があてはいけません。ですから、二頭のトラが戦うと、必ず片方が負けてしまい、（笑い）家庭はきっと睦まじくならないのです。二人の大王が同じ屋根の下にいれば、大変なことになります。世帯主はなくてはならないのですが、離婚したり、不仲になったりします。皆さんはいつも次のように言っています。男性は女性が女性らしくないと言い、女性は男性が男性らしくないと言っています。

西洋社会では、もったきっぱりしています。結婚の時、既に財産の配分を決め、将来離婚したらこれは私のもの、あれはあなたのものと決めてしまいます。とともさっぱりしています。女性は男性の妻になり、この男性を頼りにしようという考えは全くありません。男性は、この女性が一旦自分の妻になったら、既にその一生を自分に託し、彼女に責任を持たなければならないという心も全くなくなり

ました。個人の利益と自由は何より大事です。それでは、皆さんはどこで家庭の温かさを手に入れるのでしょうか。お互いに強がって争い、誰も相手のことを認めません。皆さんに教えますが、これは人間としての状態ではありません！（拍手）夫婦の間もお互いを信用せず、安全に感じられるところ、温かさや落ち着きを感じられる場所はまだありません。このように生きて苦しく感じないのでしょうか？ 「こうなってはいけない。温かさや落ち着きを感じられる場所を持つべきだ」と皆さんは心の中で思っています。しかし、皆さんの表面はこの全てを破壊しており、利己的な個性を強調し、このような場所の存在を拒んだのです。みなこのように行なったら、和やかな人間関係も失ってしまいます。もちろん、私は弟子の皆さんだけにこのように教え、これらの間違いを教えることができます。人類は既に救いようがなく、自分自身の全てを挽回できなくなりました。現在の社会の世論と全ての宣伝媒体は、みな個々の自由を主張しており、個性を放任しています。皆さんに教えますが、この放任された個性によってあなたは自由になったように見えますが、実はあなたは永遠に心温まる幸せを得ることができなくなりました！ あなたは永遠に信頼できる人を持つことができなくなりました！（拍手）

弟子：修煉して佛の世界で庶民になる大法弟子がいるのでしょうか？（笑い）

師：笑わないでください。これも概念的な問題です。修煉している人は果位があるので、決して庶民になることはありません。圓滿成就したら、みな果位を持つのです。

弟子：大法は表面の私を変えるだけでなく、異なる次元や空間にいる私を変えることができます。この理解は正しいでしょうか？

師：理解そのものは間違っていないです。私は以前このような話をしたことがあります。もし人間としての身体がなければ、修煉することができず、向上することもできません。他の空間にある身体はどのように変わるのでしょうか？ 修煉は人体がなくてはならないのです。ですから、必ず人間のこの部分が修煉して、初めて変わることができます。時には、大法の本を読んでおり、集中していない時、口では読んでいますが、意識がここにありません。これはあなたの副意識または他の方面も作用しているからです。あなたの意識がたまに現れてきますが、また消えてしまいます。この問題がいつも現れたら、この全てを放棄することになり、この法を他の人に与えてしまうことになります。これではいけません。私もこの

ように修めることを許しません。

弟子：愛と執着との違いをどのように理解するのでしょうか？

師：これは別々の概念です。愛は執着を生み出し、それ自体が修煉の中で執着をもたらします。しかし、常人の中や社会で、それは人間にとってなくてはならない要素です。人間に愛がなければ、人間は今まで以上に悪事を働き、魔性がさらに強くなります。ですから、人間は愛と情を失ってははいけません。情は人間に属するものであり、人間に与えた生存環境の中の必須な要素ですが、神に与えるものではありません。修煉者として、皆さんはこの中から抜け出し、愛と情によって生じた執着を修煉によって捨てなければならないのです。つまり、こういう関係です。愛しながら執着しないということはありません。しかし、修煉の過程ですぐに何に対しても淡泊にみて、何でも放下することができ、それほど執着しなくなることもあり得ません。ですから、現在のこの段階におけるあなたの状態のままでいいのです。

無理強いして行動しないでください。心の中に元々愛があり、家族を愛しているのに、無理やり愛さないようにしようと思っていれば、これは間違いです。なぜなら、あなたの境地が高まったのではなく、あなたは自分で人為的に行なっているからです。このようにすれば、かえって相手は大法を理解しなくなり、大法のイメージを損なってしまいます。あなたの愛が修煉の中で消された時、愛に代わって慈悲が現れてきます。ご存知のように、私はここに座っており、私は全ての人に対して、皆さんの言葉で言うと、温かく見守っていますが、実はこれは慈悲なのです。(拍手) これは皆さんのような個人的な感情とは全く違うものです。皆さん自身も、私の慈悲と皆さんの愛を区別できると思います。(拍手)

弟子：集団煉功の時、遅く来たり早く帰ったり、大きな音を立てたりする人がいて、他の人が入静するのを邪魔しています。このような人に注意を促すべきでしょうか？

師：このことに言及したので、私はあることを思い出しました。皆さんに教えますが、文化大革命まで、中国人は全世界でも有名な礼儀を重んじる民族でした。マナーや衛生、表面的なことにも非常にこだわっていました。周辺の国の文明はみな中国人が伝えたのであり、中国から教わったのです。(拍手) しかしご存知でしょうか？ 文化大革命以降は、マナーが古い風習として破壊されました。体

中泥だらけになり、手にたこができることにこだわり始め、シラミを「革命の虫」とし、人々は汚れることを良いことだと思いました。この考えはずっと続いています。現在、生活水準が高くなり、身だしなみにもこだわるようになりましたが、文革によって残されたこの観念は、まだ改められていません。ですから、皆さんが西洋社会に来た時、西洋社会の人々は皆さんのこの面に対して非常に耐えがたいのです。

皆さんは日常の礼儀に気を付けず、身だしなみを気にせず、汚い格好をし、周りの雰囲気や場所に構わず大声でしゃべり、衛生も気にしていません。もちろん、皆さんは最大限に常人に符合しながら修煉すべきだと私は言いました。修煉している弟子として、皆さんはこれをやり遂げなければなりません。本来これはたいしたことではなく、私はこれを話すつもりもありません。しかしご存知でしょうか。皆さんの振る舞いによって、白人の学習者は恐れてしまい、法を広める活動に入って来られないのです。このことに皆さんは気を付けるべきです！ これはただ一つの行為の問題だけでなく、本当にこの方面のことに気を付けるべきです。私はおしゃれをするようにと教えているのではなく、皆さんは最も表面の人間の文明を知っておくべきです。皆さんに教えますが、実は大法の中に最も低い次元の内涵も含まれています。いかなる時も相手のことを思うことができれば、全てを良く行なうことができると思います。(拍手)

弟子：あることについて既に先生からご指示をいただいたと言っている学習者がいますが、周囲の人はその人のやり方や言動が修煉者らしくないと感じています。

師：多くの方は他人と言い合って対峙している時、「これは先生が言った話だ」と私の言ったことを持ち出し、自分の執着のために弁護し、自分の取り除くべき心を隠すのです。これは非常に良くありません。しかし、逆から言えば、その人の言動に大法に合っていないものがあるので、彼が学習者ではなく、修煉が良くできていないと言っただけではいけません。実は彼は既に多くの心を取り除き、常人よりどれほど良くなったかしれません。まだ取り除かれていない心だけが現れてくることがあります。あなたはそれを見て、修煉者として受け入れがたいと思うかもしれません。つまり、表面の表れだけで人を量ってはいけません。先ほど私は当事者双方のことにも触れました。

弟子：古くからの学習者は顔色が黒くなり、しみが多く、身体がとても細くなった人もいますが、これは正常な現象でしょうか？

師：修煉は複雑なのです。もしあなたがこれらのことを気にしていれば、あなたにこれらのことばかり見せ、あなたが修煉を続けるかどうか見るのです。逆から言うと、この人に本当にこの状態が現れたら、本人が本当に精進しているかどうか見なければなりません。本も読んでおり、功も煉っていますが、実質上、彼はどのようなのでしょうか？ 本を読んで一年余り経ってもまだ『轉法輪』を読み終えていない人がいます。しかし、彼はいつも本を読んでおり、功もまめに煉っており、しかも他の人にも勧めています。修煉は厳粛なことであり、この世の中に修煉より厳粛なことはありません。私たちは本当に着実に行なわなければなりません。

弟子：早朝の集団煉功に参加せず、風雨や冬の寒さ、夏の暑さを経験しなければ、圓滿成就に影響するでしょうか？

師：これらの原因で影響されるのではありません。私は言ったではありませんか？ 苦を嘗めることは執着の除去と向上のためです。単なる幾らかの苦を嘗めるだけ何かを意味しているのではありません。大事なものは集団で煉功するという環境が人を精錬できるということです。人間の最も表面のところはいつも接触しているのは常人社会の修煉していない人であり、私が言っているのは、あなたが彼らに影響されるのか、それとも大法の中で大法弟子に影響されるのかという道理です。

弟子：宇宙を創造したのは法なのか、それとも神なのでしょうか？ 神が宇宙を創造したとよく聞きますが、佛と道が宇宙を創造したとは、あまり耳にしませんか？

師：それでは、あなたが聞いたその神は、何によって造られたのでしょうか？ 法を多く学ぶべきです。しかし、この話で私はあることを思いつきました。西洋の宗教では彼らの天主が世界を造ったと言われ、東洋の佛教では佛の業力によって宇宙が造られたと多くの人は聞いたかもしれませぬ。彼らの業力の概念は何かをすれば業力になり、業によって結果がもたらされたということです。私たちは東洋の神話、または古来の伝説の中で、盤古が天地を切り開いたとも聞きました。ここで盤古が天地を切り開いたことについてお話します。皆さんは物語で聞いたかもしれませんが、盤古は最後に、身体を天、地、山、川、河川と天上の星に変えました。どのように言ったにしても、皆さんに教えますが、異なる次元におい

て、あなたがどの次元の神であっても、あなたは自分より上の次元のことを知ることができません。今までの長い歲月の中でとつくに法からはずれ、ひいては多くの生命は法を全く知らず、忘れてしまいました。なぜ忘れたのでしょうか？ 今期の文明にいる全ての生命は、その次元がいくら高くても、ほとんど第九期に生じたのです。九期以前に法はどういうものだったのか人々はすでに知らなくなったのです。第九期になったら、法とは何かさらに分からなくなりました。異なる次元に異なる基準が存在していることだけを知っています。つまり、原始生命がほとんどいなくなったため、宇宙の由来を知ることができなくなりました。

宇宙は異なる次元で劫難が起きた時、つまり異なる天体が解体するということですが、皆さんの言葉で言うと爆発ということ。一旦爆発してしまえば、さらに高い次元の神が下りて来ますが、宇宙を創造するのを最も低い次元の神に見させることはありません。そのため、さらに高い次元の神が次元の低い神を造り、次の層の宇宙を創造させるのです。この次元で新しい神が誕生します。私は既にお話しましたが、異なるどの次元でも生命が生じます。この次元で誕生した神は天地を開闢し、この一層の宇宙を創造する能力が備わっていなければなりません。さらに高い宇宙に神がいるかどうかは、この神には全く分かりません。

先ほど私は実はある道理をお話しました。つまり、異なる次元の佛、道、神は自分自身がいる次元またはそれ以下の次元で宇宙の中の全てを創造することができます。しかし、これが彼の範囲内にあるので、彼は自分が世界を造ったと思っています。これは比較的原始的な神のことを言っています。ある神がさらに大きな宇宙を造ったとしましょう。この造られた宇宙の中のある次元である時期に一人の神が誕生しました。この神が誕生した境地は長い歲月を経て、この境地の宇宙に問題が現れたため、さらに高い次元の神によって解体され、爆発しました。爆発の後、この神が再び宇宙を建て直したため、自分が宇宙を再び建て直したと思いました。この宇宙の上にさらに大きな宇宙があるとは知らないのです。彼よりさらに小さい次元の中にもこのようなことが現れ、彼よりさらにさらに小さい次元にも異なる次元で宇宙を造ることが現れます。先ほど話したことが分かったのでしょうか？（拍手） 私は『轉法輪』第五講の中で話しましたが、異なる神が異なる特性の宇宙を造りました。皆さんの中の多くの方はこれがよく分からなかったのではありませんか？ 他でもなく、私が先ほど言ったこの状況です。宇宙はあまりに龐大であり、異なる次元に起きた変化は極めて広い天体の中の一つの小さな粒子にすぎず、神にとっても不可思議なことです。

弟子: 古代ギリシャ神話の中の神々、または中国の神話の中の神々は想像なのか、それとも確かに存在していたのでしょうか？

師: 皆さんに教えますが、現在の社会において人々は現有の科学に導かれたまま、ますます現実に潜り込んでしまいました。しかし、この現実とは偽の現実であり、宇宙の本当の偉大な真相はますますこの偽の現実によって覆い隠されています。これは人間自身が引き起こしたことであり、人間がますますこの表面を信じ込んでいるからです。多くの古来の神話は本当の話ですが、人間はそれを作られた物語としています。私は今日宇宙大法を伝え出し、これによって引き起こされた全て及びこれから起こる全ては、全ての生命を驚かせてしまうでしょう。将来さらに凄まじいことが現れます。なぜなら、法がこの世に到来するからです。人間が信じていない全てが現れ、人々を呆然とさせてしまうのです。しかし、このことがいくら大きな反響を呼んだとしても、いくら長く続いたとしても、数千数万年後に、人間はこれを物語とするのです。時間がさらに経つと、人間は今と同様に、これを人間が作った話だと思うのです。人間はこれほど低能なのです。イエスの出現を現在否定している人がいるのではありませんか？ 人間の作り話だと言っています。東洋の釈迦牟尼の出現も作り話としている人が今いるのではありませんか？

弟子: 両親は長年にわたって佛を修めています。彼らは師父が最近お書きになった二篇の経文の中で言われたような人であり、どのように彼らに正法を修めてもらうことができるのでしょうか？

師: 私が書いた経文を彼らに見せればいいのです。このようにするしかありません。誰も他人が代わることはできません。私たちは善を勧めることしかできず、他人に押し付けてはならず、相手に押し付けてはいけません。何を徳たいかは本人自身のことです。無理強いでは何かをさせるのは認められず、本人自身が修めて、初めて認められるのです。

弟子: 元々経済状況はいいのですが、わざわざ節約して生活するのは執着でしょうか？

師: 中国人は生活が苦しい時期があったので、多分、貧しさを恐れてしまったのです。それによって、人々は必要以上に節約するようになりました。度をすぎるとよくありません。普通に生活すればいいのです。節約するのは悪いことではあ

りませんが、どんなことでもやりすぎたらいけません。修煉者に何かの固定観念があるべきではなく、儉約するのは間違いではありません。

弟子：中国で修煉する時とヨーロッパへ出張する時、先生の同じ法身によって守られているのでしょうか？

師：法身が同じかどうかは、これに区別があるのでしょうか？ あなたに教えますが、彼らはみな私の智慧によって管理されており、区別はありません。実は法身は即ち私であり、私の考えは即ち法身の考えです。

弟子：真体とは何でしょうか？ 功身とは何でしょうか？

師：これには区別があります。人間のこのところの全てが神から見れば真実ではなく、佛の体と神の体だけが真実のものなので、その次元の体またはさらに高い次元の体を真体と呼んでいます。功身は私が独自に持っているものであり、この宇宙のいかなる生命にもないものです。功身は私の歴大な功であり、同時に私の形象を構成することもできます。(拍手)

弟子：煉功の時、いつも先生が何かを話している声が聞こえます。

師：もし話しているのが法であり、本の中の内容であれば大丈夫です。それがあなたの功能方式の現れであり、あなた自身の功能の現れです。法の中の内容でなければ、それは妨害です。

弟子：子どもに煉功を教え、良い人になるようにと話していますが、経の読み聞かせもしなければならぬのでしょうか？

師：良い人になるようにと教えていますが、それは常人の中の良い人になるにすぎません。法だけが人々を元に向かって昇華させることができます。この道理ではありませんか？ 五式の功法は子どもができる程度でいいのです。今それをすることができず、少し大きくなってからしたらどうかと言う人がいますが、これも問題ありません。

弟子：子どもに大法の法理を話す時、子どもに分かるように説明していますが、これはよろしいのでしょうか？

師：これは問題ないと思います。あなたは修煉者なので、間違っただけで説明することはないと思います。あなたが道理をもって子どもに説明しているので、問題ないと思います。

弟子：関にぶつかったことがあります。私はその時、志を失いました。再び修煉を始めたいと思っています。

師：「私はまだ修煉できるでしょうか？」と先ほど私に聞いた学習者がいます。つまり、よく行なえなかったところがあり、弟子としての基準に達していないかもしれないということです。良くないことをしたら、まだ修煉できるでしょうか？ 修煉できるかどうかはあなた次第です。あなたは既に法を聞き、法を得ました。もちろん、よく行なうことができず、その関を乗り越えることができず、損失は非常に大きかったのですが、再び修煉を始めることができます。心を静め、思い切って再び始めればいいのです。既に大法の中で修煉する決意をもっており、その時の事が間違いだったと分かったのに、なぜ思い切って再び修煉を始め、追い付いて来ないのでしょうか？ 私に言わなくても、他の人に言わなくてもこのようにしたいと思うだけでいいのです。ただ修煉を始めれば、私が思うにはもう十分です。実は皆さんの誰もが修煉を始めた時、修煉したいと思ったから法を得たわけではありませんか。しかし、再三に機会を失ってはならず、間違いを再三に犯してはいけません。修煉は厳粛なことです。これ以上間違ると、この法に入る機会がもうないかもしれません。既に機会があり法に入ったので、二度と失わないでください。

弟子：多くの北米の弟子が結婚せずに同棲しています。中に子どもまでできた人がいます。彼らは婚姻届を出すべきではないでしょうか？

師：そうすべきです。最大限に常人に符合して修煉すべきだと私は皆さんに教えました。別の角度から言えば、昔の中国では、結婚は天地の承認を得るべきだったので、結婚の時に天地を拝まなければなりません。親の承認を得るべきで、親を拝まなければなりません。西洋社会では、彼らの主と神に認められなければならないので、教会に行って主に誓い、主または神がその結婚を証明し、二人が結ばれることを証明します。現代の西洋社会はこれを破壊し、何の形式も踏まず、二人が一緒になって、何の縛りもありません。楽しければ一緒にいますが、悪くなれば人を換えてしまいます。これではいけません。大法の学習者

としてこの道理を認識すべきです。西洋社会の性の解放によって造られた業力は非常に重いのです。東洋から来た人はさらにひどいのです。これらのことに気を付けるべきです。人間が悪くなり、修煉者の行ないが常人にも及ばないのであれば、これは問題ではありませんか？ もちろん、まだ手続きをしていませんが、気持ちと行動においては既に結婚したと同じで、子どももいて、別かれることもできないと皆さんは心の中で思っているかもしれません。しかし、皆さんは手続きを踏んでいません。お互いに相手に責任を持つことができると思っており、それは悪くありませんが、しかし、なぜ手続きをしないのでしょうか？ 少なくとも常人社会に合法的な夫婦として認めてもらうべきです。私が思うには、このようにすべきではありませんか？ つまり、この問題を軽くみてはいけないということです。このことについてはこれくらいにしましょう。以前どのように行なったかに関わらず、過ぎた事は過ぎたことにしましょう。これからよく行なえばいいのです。

弟子：元神が身体から離れて見た光景と、功が開いて見た光景とどのように区別するのでしょうか？

師：これについて既にお話しました。「何のために見えないのか」という経文の中で私は既にはっきり述べました。なぜ見えないのでしょうか？ 即ち見えてもはっきり見ることができません。つまり、あなたが見えるようになっても、それほどはっきりした光景ではないということです。もしはっきり見えたとしても、それも局部的なものです。神のように開放されて、何でも知り、何でも見え、映画を見ているようなことはあり得ません。もちろん、特殊な状況もありますが、私は普遍的なことを言っています。

弟子：大雪の中で法会に参加しましたが、車が途中で壊れてしまいました。家族は私の冒険的な行動を理解することができません。

師：いかなることも簡単な公式のようなことではなく、みな公式に基づいてすればよいということではありません。修煉なので、それぞれが遭遇する状況はとても複雑で、これが原因かもしれず、あれが原因かもしれません。例えば、自分自身の心性の関を乗り越えていないので問題が現れたのかもしれず、或いは他にもっと重要なすべきことがあったのかもしれません。或いはこのような難に遭うべきなので、困難や妨害に遭いました。ですから、修煉は極めて複雑で、皆さんが考えているように簡単なことではありません。車が壊れたことによって、数キロ

先で遭う交通事故から免れたかもしれません。この状況であるかもしれず、あの状況であるかもしれず。修煉の中で皆さんが経験したことはみな良いことであり、自分の威徳を樹立することでもあります。

弟子：大法を紹介するために、二日間だけの勉強会を行ないますが、これは正しいでしょうか？

師：二日間で大法を紹介する勉強会であれば、時間があまりに厳しいのです。『轉法輪』を連続して読み終えなければ、この人は再び本を手にするのが難しくなります。なぜでしょうか？ 人間に思想業力があり、考えの中の観念によって業力が生じたのです。本を読んでいる時、つまりあなたの考えにある業力を減しています。業力は生き物であり、あなたに減されるのを知っているため、この本と接触できないようにするのです。あなたに時間があっても、この本を読みたいという思いを起させないのです。あなたに本を読む時間がないようにできるだけのことをします。ですから、これが一回目の時、本を読み終えていなかった人がなぜ、その後続けて読むことができなくなったかの理由です。ビデオを見る時も同じです。もしあなたが通して見ることができなければ、見る時間を作ることができなくなります。これは魔があなたを妨害しており、あなたに時間がないようにし、再び大法と接触しないようにできるだけのことをしているのです。ですから、この問題が現れることがあります。しかし、皆さんには法を広める時間がありませんので、自分の状況に従ってこのことに対処するようというしかありません。

弟子：長期に他の修煉者の善意による援助を受けるのは、無限に徳を失っているのでしょうか？

師：例を挙げてお話しします。ある学習者は家庭の経済が急に厳しくなりました。修煉者にとって、この困難は以前作った借りを返すためかもしれません。以前の借りを返す過程で、必ずこのような苦しみに耐えることができますが、時間は長く続きません。多分このようなことがあると思います。他の学習者は彼が苦しんでいるのを見て、助けてあげるべきだと思うようになりました。どのように助けるのでしょうか？ みんながお金を出し合って、お金を渡し、その家族の生活を支えていました。この人はそれから何もしなくなり、法を学ぶ以外には、家で食べたり飲んだりして、他の学習者からもらったお金を使っていました。さらに続けると、法も学ばなくなり、お金をもらって生活するようになりました。皆さん考

えてみてください。皆さんは慈悲の心を持っていますが、このように対処してはいけません。人それぞれに自分自身の難があり、他の人は慈悲からその人を助けたり、仕事を紹介してあげたり、または臨時に何かの問題を解決してあげることができですが、決して長期に行なってはいけません。私がおの人に按排した道は皆さんに破壊され、その人は修煉できなくなり、最後に修煉をやめてしまいました。仕事も探さず、困難があっても解決せず、どうせ使えるお金があるから、毎月持ってきてくれればいいのです。このようになってしまったら、学習者は一体何をしているのでしょうか？

援助？ 援助とは何でしょうか？ 知らない人になぜ物をあげるのでしょうか？ 知り合いはみな学習者なので、学習者の間で貴重な物を気ままに贈ることはいいのでしょうか？ なぜそうするのでしょうか？ その理由を考えたことがありますか！ たとえ貴重でなくても、なぜ長期にあげるのでしょうか？ なぜそうするのでしょうか？ あなたはなぜそれを受け取るのでしょうか？ 貪欲の心を放下できないのでしょうか？ それとも他の原因があるのでしょうか？ なぜ自分で原因を探さないのでしょうか？ これではいけません。私たちの大法はお金や物に触らず、お金を蓄えず物にも触れません。皆さんが修煉しに来て、ここに座っていますが、私は皆さんから一円も取りません。なぜ他の人が何かをくれる時に、それを放下することができないのでしょうか？ ここで特に一つの問題を強調しておきますが、大法のために仕事をしている全ての人、または師父のために仕事をする人は、どんな理由であっても、決して学習者からいかなる物品も受け取ってはいけません。託されて師父に渡すものであれば、必ず師父によって処理されなければなりません。勝手に処理し、または手元に残したり、着服したりしてはならず、師父宛の手紙や他のものを勝手に開けたりしてもいけません。

弟子：生命の墮落は元神が何かのことに執着し始め、または元神が変質したから引き起こされたことでしょうか？

師：私はこのように問題を見ていません。人間の生命は一つの全体であり、あなたの元神、副元神またはあなたの身体があれこれをしたという言い方をせず、間違ったら全て間違っただということになります。あなたの一念に異なる次元にいる全てのあなたが入っているからです。間違いを起こしたらそれを直せば良い人になります。自らを修めることができれば、向上することができます。

弟子：人体という小宇宙の中にいる衆生の生命と、この人体を主宰する元神とは

同じ次元にいるのでしょうか？

師：同じ次元にいません。皆さんは自分自身の身体にいる全ての生命より次元が高いのであって、皆さん自身の全ての細胞に統一した思惟の支配体系が存在しています。

弟子：私は今年十三歳ですが、日本で生まれました。言葉が通じないので、どのように修煉するか全く分かりません。

師：大人は何かの方法を考えてこれを解決してあげてください。日本で生まれたので、中国語が分かりません。まだ子どもなので、日本語で書かれたものを全て理解することもできず、字を全て読めるわけでもありません。困難があるかもしれません。分からないところがあれば大人に聞けばいいのです。徐々に分かるようになります。子どもの頭はよく働くからです。ご存知のように、中国で全く学校に行ったことのないお年寄りがいます。『轉法輪』を読んでいます。何度も読んでいたうちに、全て読めるようになりました。このような人は大法弟子の中で既に相当います。数十年、人生の大半も過ぎましたが、字が読めるなど考えたこともありません。大法を学ぶことを通じて、極めて短い間に『轉法輪』を全て読めるようになり、しかもすらすら読むことができました。本当に奇跡なのです！なんと言っても法なので、このようなことが現れます。もちろん、大人のような根気は子どもにはないかもしれません。しかし、私もこのことを配慮するのです。子どもはなんと言っても子どもですが、努力して、その上大人による助けがあれば、解決されると思います。

弟子：副元神との間にどのような因縁関係があるのでしょうか？

師：因縁関係があるかもしれず、ないかもしれません。公式がないからです。人それぞれに異なる生々世々での状況があるので、これらは人間の因縁であり、あなたの修煉と関係ありません。主元神がここではつきり分かった状態下で法を得ていれば十分です。他の副元神は自然にあなたに従って修煉するのです。

弟子：東洋系の武術館で法を広めてもよろしいでしょうか？

師：人に法を得させることは、どの環境下であっても問題ないと思います。ただ、この武術に道家の武術があります。それは気功の部類に入るものです。他は何の

影響もありません。大法を修煉している多くの人は武術も練習しており、何の影響もありません。

弟子：師父が科学の真相と常人社会の各種の良くないことを明らかにされてから、私には判断における思想の混乱が起きて、解決することができません。

師：もう一度言いますが、最大限に常人社会に符合しながら修煉すべきです。皆さんに教えますが、私は科学の背後にある本当の要素を明らかにしましたが、科学に反対していません。もう一度繰り返しますが、私は科学の真相を明らかにしましたが、科学に反対していません。なんと言っても、科学はこの宇宙の衆生の一種の生命に備わっているものだからです。私はここで人類にこのような状態があるべきではないことと、人類が変異させられたことの原因を明かしましたが、科学に反対していません。行なうべき仕事であれば、行なえばいいのですが、ただそれは佛法に比べると非常に低能なだけです。修煉が進むにつれ、徐々に分かってきます。

弟子：法を得た当時は非常に興奮していましたが、迷いが深すぎたため、非常に良くないことをしたことがあります。私はもうおしまいになったのでしょうか？

師：大法の修煉はまだ続いており、学習者はまだ絶えず精進しています。あなたは現在このメモを出すことができ、私はあなたのメモを読んでいるので、あなたの縁は浅くはありません。時間を大切にしてください。(拍手)

弟子：私はレバノンから来ており、家族はみな宗教を信じていますが、私は宗教を信じません。しかし、影響されるのではと心配していますが？

師：何の影響もありません。あなたはあなたのものを習えばいいのであって、彼らは彼らが信じているものを信じればいいのです。これは何の影響もありません。彼らが信じているものに見守ってくれる神はいません。見守ってくれる神がいなければ、なおさら影響はありません。

弟子：何回かの重大な心性の関は、私が法会に参加する前に起きました。これは先生の法身が按排されたのでしょうか？

師：あなたが学習者であれば、私はあなたに責任を持たなければなりません。私

があなたに心性の関を設けたかどうか、または他に何か具体的な原因があるのではないか、これらの出来事において師父である私は必ずあなたに対して責任を持ちます。修煉者に起きた出来事はみな良いことであり、あなたはただ修煉すればいいのです。皆さんは気付かなかったかもしれませんが、昨日の午前中、ある学習者の発表の中に次のような内容がありました。彼は自分がいくら修煉しても進歩していると感じられなくなったと言いました。そして、彼はある日、「私はある方面において変わらなければならない」と悟りました。彼がその後煉功したら、この壁はすぐに開かれ、直ちに彼の前に現れたのは他の境地なのです。この学習者の発表を皆さんはよく考えるべきです。

弟子：法輪大法が先史時代に人を済度したことがあるのに、なぜ衆生は法を忘れてしまったのでしょうか？

師：あなたが指しているのは人間のことなのか、それとも神のことでしょうか？ 大法に済度された人はみな天に上りました。なぜあなたはそれらの生命が法を忘れたと分かるのでしょうか？ あなたに教えますが、ある人が修煉して圓滿成就したら、その人の全ては法によって造成されたのであって、全ては法に同化したのです。あなたが大法の中にいれば、大法の一部になります。実は全宇宙の衆生はみな大法の一部ですが、ただ、その生命はますます法からずれてしまっただけです。ある生命が法からずれてしまったら、落ちてしまうことがあり、彼の行くべき次元に行くのです。もし全て法からずれてしまったら、その部分は解体され、その後また、新しい生命が造られます。

弟子：修煉は、即ち大法に対する理解と記憶を深めることです。この言い方は正しいのでしょうか？

師：こういうことではありません。あなたが今覚えているのは私が常人の中で明かした、法を表す最も低い形式です。あなたが異なる境地で圓滿成就する時に知った法は、私が現在あなたに説いた法の内涵以外は全ての文字まで違っています。私が言ったことを理解できるでしょうか？（拍手） ですから、皆さんはやはりどうしても人間の観念で神のことを考えようとしています。

弟子：自分が執着を破って歩んで来たと気付きました。この執着というのは表面から見て正しいかどうかではなく、内涵が違いました。

師：その通りです。大法は異なる次元であなたの修煉を指導する際、心で理解することができますが、言葉で言い表すことはできません。常人の言葉と思惟が入ると、その味が変わってしまいます。話がまだ口から出ていなくても、常人の言葉と思惟が入ると、既にその意味ではなくなります。ですから、一旦口にしてしまうと、その境地での本当の意味ではなくなります。皆さんもこのことに気付いたと思いますが、心で理解するしかなく、言葉で言い表すことができません。しかし、皆さんの体験談はなぜ話していいのでしょうか？ 皆さんが言ったのは最も次元の低い最も表面的なことで、以前の皆さんのことです。もちろん、新しい学習者が言っているのは現在のことで、きっと表面的なことなのです。

弟子：師父が何回かお告げをくださったのですが、自分の次元が高いと考えたくないのです。この考えの背後に執着があるのではありませんか？

師：そうとは限りません。歓喜心が起きるのではないかと心配して、自分を制御している時があります。歓喜心を起こしてはならず、自分のことを必要以上に高く思ってもいけないという状況です。これも良いことだと思います。しかし、このことを固守しすぎないでください。新しい執着になる恐れがあるからです。つまり、正々堂々と修煉することです。

弟子：「これはあなたの執着だ、あれはあなたの執着だ」と相手のことを言う人がいますが、言う本人が執着の中にいるのではありませんか？

師：双方に原因があるかもしれません。しっかりした考えを持っている質問ですが、この考え自体に執着がないとは言い切れません。相手の執着を言う時に刺激されたから、逆に相手の執着を言うことで、自分の執着を覆い隠しているのではありませんか？（拍手） 執着していると言われた人は、自分の執着を放下できないから、指摘した人が執着していると言うことで、自分の執着を放下しないのではありませんか？

弟子：責任者がもしその位置を自分より能力のある人に譲ったら、大法の発展に貢献することになるのでしょうか？

師：字面から見ると、皆さんはこれが正しいと思うでしょう。これは問題ありません。他の人のほうが修煉も良くできており、能力もあるので、その人が責任者にならなければ、大法にとって損失であるかもしれません。もしこの点から認識

することができ、大法のために考えるという基点に立って認識できれば、これは非常に素晴らしいのです。もちろん、逆から言えば、自分自身に非常に深いところに隠されている考えがあり、ひいてはそれが執着であると考える勇気もなく、それに考え付くとすぐ隠し避けてしまえば、これも正しくありません。

弟子：私の心、私の一切をもって、全てを尽くして師父に捧げるといつも自分を戒めています。

師：皆さんの気持ちは私に分かっています。皆さんに教えますが、これは宗教からきたことです。釈迦牟尼の弟子が托鉢していた時、僧侶に一口の食物を与えることが功德無量であると釈迦牟尼は言ったことがあります。しかし、彼に幾らかのお金や財産を与えたら、それが功德無量だと言ったことはありません。宗教が既に佛の要求に従って行なうことができなくなったので、現在の貪欲な和尚は多くのお金が欲しいので、「私に多く布施をすることこそ功德無量なことだ」と宣伝しています。どのように布施をしたらいいのでしょうか？ 多くくればくれるほどいいのです。家の財産を全て私に布施をしたほうが最も望ましいとまで考えています。皆さん考えてみてください。この上なく利己的になり、他の人の全財産まで奪いたいという利己的な観念を持っており、ひいてはこれさえ満足できないその心は、邪悪の魔よりも凶暴であり、どうして修煉者であり得るのでしょうか？

大法はお金で量ってはいけません。あなたも修煉者なのに、なぜ他の人から物を受け取るのでしょうか？ なぜ他人のお金を欲しがるのでしょうか？（拍手）逆から言えば、物を要求された人も佛を修めている人であり、でなければ、彼はなぜあなたに布施をするのでしょうか？ その人があなたよりも修煉がよくできているかもしれないのに、あなたは彼から布施をもらう資格があるのでしょうか。あなたが彼に布施をすべきです。もちろん、現在の宗教は金や権力のために政治に参加することが多く、何も驚くことはありません。嘘は三回言えばまるで本当のように、聞けば聞くほど正しく聞こえてしまい、正しいかどうかを考えもしくなりました。もちろん、師父の生活がどうなっているかと思う学習者がおり、いつも師父の生活面の問題を解決したいと思っています。皆さんはこれを考える必要はありません。皆さんの気持ちは私に分かっています。

弟子：生命の目的は真・善・忍に同化することに他なりません。もし背離したら、私は自ら形神全滅を望みます。

師：皆さんの法に対する理解は非常に深くなりました。圓滿成就したいという決意は磐石のように固いのです。非常に素晴らしいと思います。法における修煉の基礎がしっかりしたので、このようなことが言えたのだと思います。

弟子：これから師父を受け継いで大法を広め続ける人がいるのでしょうか？

師：このことをやり終えたら、後はありません。皆さんは宇宙が交替する時期におり、法を正すことが終わったら、未来の人は新たに発展し始めるのです。彼らは大法のことを知りませんが、歴史上にこの出来事があったことを知るようになります。この大法の法理が何だったのか、彼らは一つの文字さえ見ることができません。彼らの新しい文明が築かれる時、新しい佛、道、神は世に下りて法を伝え人を済度するのです。ですから、未来の生命は同様に佛法を聞くことができます。白人社会にイエスと同じ神がまた世に下りて来るかもしれません。それは新しい紀元になってからのことで、皆さんと何の関係もありません。

弟子：『轉法輪』と先生が既に出版された全ての本に、同じ法力が備わっているのでしょうか？

師：そうです。大法のものであれば、同様にその背後にある無限の内涵が備わっています。皆さんに教えますが、系統的に修煉するには、『轉法輪』という本を中心に修めるしかなく、他の本はみな参考にするだけです。しかし、異なる次元の内涵があるので、異なる次元で参考にする価値があります。しかし、系統的に修煉するには『轉法輪』しかありません。ですから、必ず『轉法輪』を中心に繰り返し読むべきです。

弟子：圓滿成就する弟子はみな、非常に高い次元まで済度されるのでしょうか？さもなければ、これほど大きな法も必要でなくなります。

師：先生がこれほど次元が高く、奥深い大法を説いていますが、私たちがそれほど高い次元まで行くことができなければ、それほど高く説いても、無駄になるのではないかという意味でしょうか？皆さんに教えますが、既に見えた学習者もあり、毎回の法会で説法を聞いているのは皆さん人間だけではありません。もちろん、彼らは私が言った同じ話を聞いても、皆さんが聞いたようなこの次元の修煉者が理解した内涵ではありません。

弟子：「家に帰りたい」という学習者の発言を聞いて、なぜか分かりませんが、涙が止まりません。

師：多分皆さんの最も本質的な部分、最もミクロ的な部分に触れたのかもしれませんが。

弟子：卍符は佛の次元を表す符号ですが、道の次元を表す符号もあるのでしょうか？

師：公式をもって天上のことに当てはめようとしてはいけません。そういうことではありません。実は、異なる神の体現は何かの符号の多さではありません。卍符は佛の一種の表れであり、佛のことを表しています。もちろん、佛はこのような表現形式であり、佛に次元を表す符号があります。実は天上の神を一目見れば、その次元の高さが分かります。見ればその神の次元が分かります。

弟子：以前の全ての修煉方法は、みな副元神が功を得ていたのですが、西洋の宗教の修煉方法の場合、誰が功を得ているのでしょうか？

師：これは聞く必要があるのでしょうか？ 西洋の修煉方法も肉体が死んだ後、副元神が去って行くのではありませんか？ 地上の人間が一人少なくなってもいけないので、その主元神は続けて輪廻に入ります。

弟子：西洋人はエホバだけが宇宙の唯一の創造者であると思っています。どのように彼らのこの障碍を破ることができるのでしょうか？

師：このように考えている人がいます。道理から説明してあげたり、本を読ませたりすればいいのです。これ以外、他の方法はありません。強制的に相手に信じさせてはならず、本人が信じなければ、現在何の方法もありません。私は話したことがあります。宇宙にいる異なる次元の神は、その次元がいくら高くても、いくら低くても、或いはどの次元にいても、自分より上の次元に何かがあるか知りません。今日私は法理から皆さんにそれほど高い境地があると教えました。皆さんは人間の迷いの中で道理を聞いているだけです。しかし皆さんが本当に法に溶け込んだ時、あなたはその次元の法の一分子になるので、その時、誰かがさらに高い次元の話も教えても、あなたはやはりそれを信じようとしません。皆さんは確かに自分より下または自分と同じ次元にある全てを目に納め、漏れることは

何一つありませんが、その状態であなたに見えない全ての存在を決して信じようとしません。「先生が現在このようにおっしゃったから、将来私はそれを必ず信じます」とあなたは現在思っていますが、あなたに教えますが、その時になると、私が現在皆さんに説いた法の言語形式と方式は今のようなものではなくなります。

弟子：神に元神がいるのでしょうか？

師：神を人間と比べてはいけません。なぜなら、人間は迷いの中にいるからです。神には元神、副元神またはその他の形式はなく、神はそれ自身だけです。しかし、神には神の体があります。この体の存在も人間の主元神と人間の身体との関係のようなものではありません。この関係ではありません。神とその体は一体を成しており、全てははっきり分かっていますが、人間には何も分かりません。

弟子：私は新しく来た者で、神と天国の存在を真に信じることができません。もし私が一生懸命法を学び、心を修め、煉功すれば、あなたの弟子になることができるのでしょうか？

師：できます。みなできます。修煉さえすればいいのです。あなたより頑固な人が大勢いましたが、やはり修煉して向上しました。心を放下して修煉してください。実はあなたの話から、あなたが既に大法を学びたいという気持ちが湧いてきたと分かります。これはただの始まりにすぎません。あなたの現在の考えの基礎から一気に全てを変えようと思っても、現実味のない話です。ですから、法を学ぶ中で法理から徐々に分かるようになり、最終的にそれを感じるようになり、触れるようになり、見えるようになります。

弟子：多くの人に重なった影があるのが見えています。彼らの真体が修煉して成就したのでしょうか？

師：大法がめざましい勢いで人を変えているので、あなたはその人の他の空間に存在している身体の影が見えたのです。

弟子：寝る前に師父の説法の録音をもう少し聞きたいと思っていますが、いつも途中で寝てしまいます。これは師父に対して不敬ではありませんか？

師：私はこのように考えています。精進したければ、真面目に法を学ぶべきです。

眠れないから、法を聞けば眠れると思っていれば、法を眠らせるものと考えてしまいます。あなたは心をどこに置いているのでしょうか？ しかし、法を聞く時、確かに寝てしまう人がいます。なぜでしょうか？ あなたを眠らせ、法を聞かせないものを魔と見なさないのでしょうか？ もしこういうことであれば、なぜそれに打ち勝つようにしないのですか？

弟子：煉功の時に肩が激しく動いている学習者がおり、目を開けたままの時も同じです。

師：法を多く学ばせ、本を多く読ませ、真に法に則って向上させるようにしてください。専一に修煉できなければ、このようなことがあります。または肩に病気がある場合、修煉の中でその病気を除去する時、このように動くこともあります。このことが長く続くと、その人は病気除去の最初の次元から全く進歩していないことを物語っています。心を純粹にして修煉し、法に則って本当に向上できれば、このことはすぐ過ぎてしまい、その次元から抜け出すことができます。修煉の時、身体に具合が良くないところがあり、長期に良くならない人は、どうして大法の中で心を放下して着実に修煉しないのでしょうか？ 煉功を通して病気を除去することばかり考えており、または修煉はしたいが本を読まないのであれば、良くなることあり得るのでしょうか？ 当然、長期にわたりその状態に留まってしまっているではありませんか？

弟子：普段多くのことに対して気にしていないのですが、これによって修煉の中の関を乗り越えることに対しても気にしなくなるのでしょうか？

師：修煉の中で大法があなたに震撼を与えることができず、普段の他のことのようになってしまうと、これは本当に問題だと思います。こういう場合、一心に法を多く学び、この障碍を破ってください。それが金城鉄壁のように突き通すことができず、あなたの悟性と法に対する認識にひどく影響しています。なぜそれを破って開かないのでしょうか？

弟子：私はひどい悪事をしましたが、まだ修煉することができるのでしょうか？

師：実は皆さんは法を得てから、このように再三に間違いを起こすべきではありません！ あなたが放下できない執着をそれが間違いだとはっきり分かっていますが、やはりしてしまいました。教訓を汲み取り、それを原動力にし、心を入れ替

え、生まれ変わり、新たに始めなければ、この機会を失ってしまいます。

弟子：法理に対していつも新しい理解がありますが、これはただ理論に留まっているのでしょうか？

師：新しい理解があれば向上しているのです。差がとても大きいと感じていますが、差があると感じたのは、つまり向上しているのです。常人は自分のどこに間違いがあるかみえません。この状態で悟った理は理論に留まっているのではなく、そうではありません。ミクロ的な変化がまだ常人社会に反映されてこないため、あなたは法理があなたに顕現したものから理解し、感じとるしかありません。こういう状況です。

弟子：「嫉妬心をなくさなければ、人の修煉した一切の心が脆弱なものになります」とありますが、ここで指しているのはどういう心でしょうか？

師：ここで指している全ての心はもちろん、あなたの修煉の中の全ての正念のことです。正念は実は正しい認識のことであり、つまり、あなたの修煉してできたその部分が非常に脆弱なものになるということです。

ここまで話してあることを思い出しました。最近香港で新しく出版された『長春輔導員法会での説法』の十二ページの三行目に「人類の法」という言葉があります。「人類」を「宇宙」に直してください。つまり、「宇宙の法」になります。中国大陸で出版された本の十四ページにあるようです。

弟子：家で『轉法輪』を通読する時と、集団で法を学ぶ時の進み具合に違いがあるのですが、修煉に影響するのでしょうか？

師：真面目に学んでいれば、影響はありません。皆さんに教えますが、『轉法輪』を読む時、最初から最後まで読めばいいのです。今日読み終えられなかったら、明日そこから続けて読めばいいのです。まだ読み終えていなければ、次回続けて読めばいいのです。このように読むのです。内容を選んで読まないでください。最もいけないのは、初めて『轉法輪』を読む人が人間の観念を抱いて法を量っており、「この部分の内容がとても良かった、あの部分に対して疑問を持っている」と思ってしまうことです。こういう場合、読んだ一冊の本が全て無駄になり、何も得ることができず、本当にもったいないのです！ 法は厳粛な天の法だからで

す。人間は自分にどれほどの業力があるか知らず、自分の考えがどこからきているのかも分からないのです。人間の考えをもってこの法を量っているのです、何も読み取ることができません。何の観念も抱かず、本を手にとって読んで、読み終えてから判断してください。読んでいる途中で法の良し悪しを判断しないでください。

弟子：冬、外で煉功する時、厚着をしているので煉功の際に衣服に当たりやすくなり、これで機制を乱してしまうのでしょうか？

師：冬厚着をして煉功する時、衣服に当たることは煉功に影響しません。非常に寒い時、手袋をつけて煉功すべきであり、凍傷にならないようにしてください。実は煉功者が凍傷になることはありませんが、なった人がいます。なぜでしょうか？ 皆さん考えてみてください。強制的に大法を修煉させてはならず、本人の自由意志でなければなりません。大法の修煉の中で絶えず新しい学習者が入って来て法を学びますが、彼らはそれほど大きく高い悟性と高い次元がなく、試練をまだ経験していないので、修煉しに来ているとは言えません。つまり、真に修煉する弟子と見なしてはいけません。このような人が凍傷になったら、法にひどく影響してしまうのではありませんか？ 入門したばかりで、入って来たばかりの人なので、修煉者であるかどうかまだ断定できません。もし試してみようと思った時に凍傷になってしまえば、大きな影響をもたらしてしまいます。修煉の中で絶えず新しい学習者が入って来るので、皆さんはこのようにしてはいけません。どうしてもこのようにして凍傷になった学習者がいます。実はこれは彼の業力の除去を手伝うと同時に、この形で本人に悟らせているのです。

弟子：動作がかなり違っている人がいますが、機制と法輪に影響しないでしょうか？

師：大分違っていれば、それはいいけません。少し違っていれば、誰の動作も同じ模型から作り上げられたように、機械から作り上げられたように全く同じになることはあり得ないので、お互いの間に必ず違いがあります。違いがなくても、それぞれの身長にまた違いがあるので、やはり違いがあるのではありませんか？ つまり動作が完全に一致していることはあり得ないということです。そうではありませんか？ しかし、動作に大きな違いがあれば、それはいいけません。できるだけ正確にすべきです。

弟子：酷暑や厳寒の日に外で煉功したほうが室内で煉功するより、業力は速く消されるのでしょうか？

師：これは私が先ほど言ったことです。外で煉功するのはもちろん良いことですが、人為的に苦を探して嘗めてはいけません。北方地域に住んでおり、冬は非常に寒いので、外で煉功する時、必ず防寒服を着て手袋を付けなければなりません。実を言うと、それくらいの寒さではたいした業を滅することはできません。心性の向上だけがあなたの向上の鍵です。(拍手)

弟子：国内で師父に会うことができず、私の地元の弟子は師父によろしく伝えてくださいと再三に言われました。

師：ありがとうございます。(拍手) 私は国内の学習者の気持ちが非常によく分かります。国外で法会を開くのはとても簡単で、この前ロサンゼルスで開きましたが、まだそれほど経っていないのに、また皆さんにお会いしました。国内の弟子の場合は非常に難しいのです。国内の弟子は数千万、一億近くいますが、私に会うことはとても難しくなっています。一旦私がどこで姿を現すのか、どこに泊まるかを知れば、全ての学習者はみなそこに駆けつけてしまいそうになります。飛行機や列車が満員になり、道も塞がってしまうので、政府はそれを承知しなくなります。ですから、国内の学習者に安定した環境があり、影響されずに修煉でき、社会に影響を与えず、政府に面倒をかけないようにするため、彼らに会いに行くことができません。

弟子：師父はベルギーに行かれる機会があるのでしょうか？ 法を広める中で講習会や講座を開く時にお金を取る人に会いました。

師：ベルギーに行く機会があります。(拍手) 講習会や講座を開く時にお金を取っていれば、その人は私たち大法の弟子ではありません。これは間違いないことです。(拍手) その人が大法をもってお金を手に入れているので、これは小さい問題ではありません。しかし、場所の問題を解決するために、学習者がお互いに自由意志で解決するのであれば、私は反対しません。これ以外は全てだめです。

弟子：今年の方が去年よりも速く進んでいると最近感じていますが、これは何を意味しているのでしょうか？

師：もちろん、以前私はこのようなことを話したことがありますが、こういう話は人々に信じられず、とてもレベルの高い話をしなければなりません。しかし、皆さんはいつもこれらのことについて聞いています。実は私は全ての時間を越えてこのことを行なっています。さもなければ、考えてみてください。ある生命がある時間場に入れば、その時間に制約されます。他の時間場に入れば、またその時間に制約されてしまいます。私の一生、十生、百生、千生、一万生、一万世を使い果たしても、このことを終わらせることができません。私は全ての時間を超えて行なっており、いかなる時間にも制限されていません。このことを速めるために、天体全体の時間を速めなければなりません。ですから、最大の法輪は最も高いところで回転を速くし、時間を速めています。天体全体の上と下がつながっているのです、時間はますます速くなっています。どこまで速くなるのでしょうか？ 異なる時間と空間にいる生命にとって、いくら速くなっても、その空間の全ても共に速くなっているのです、速くなったと感じられません。私が言ったこの意味が分かりますか？ 同様に一日は二十四時間であり、みな同じようにそれぞれのことを行なっており、この空間全体の時間が速くなりましたが、時計はやはり二十四時間で動いています。ですから、人々は速くなったと感ずることができません。人間が見た日の出と日の入りも同じくこのように巡っています。

全てが速められた時、全てが速くなっており、あなたの新陳代謝、動作、目つきや考えまで共に速くなっており、異なる次元にいる生命が存在している環境も同様に速められ、全てが速くなっているため、誰も速くなったと感じられなくなりました。どこまで速くなったのでしょうか？ 今日の一日は一秒くらいになっています。思えば、人間は実はとても気の毒です。しかし、人間はまだ興味津々に人間のことをしており、自分が偉いと思い、まだどこそこまで発展したいと思っています。人間は取りも直さず人間であり、無知の中で自分を壊滅している時になっても、それを知らないのです。クローン人間が本当に造られた時は宇宙人が正式に人間に取って代わる時です。なぜなら、神は造られた人間に元神を与えることはないからです。そのため、造られた人間は死体のようになり、神がなければ死んだものと同じです。それではどうするのでしょうか？ 宇宙人はこの隙に乗じて、その神になります。

弟子：圓滿成就したら続けて『轉法輪』を学ぶことができるのでしょうか？

師：天上の神も大法を学んでいます、読んでいるのはこのような文字ではなく、法が彼らのそれぞれの次元で表わしたものです。

弟子：修煉の道は師父に按排されているものですが、人為的に仕事と生活の環境を変えるのは、修煉に影響するでしょうか？

師：皆さんが人為的に苦を探して嘗めることを私は望んでいません。しかし、そういう条件があり、条件が整っており、さらに良い仕事を探そうとすれば、このようにすることはお勧めします。条件が整って、各方面にも問題がなく、場所を変えて住んでみたいと思うのは何の影響もありません。多分これは即ち修煉の中にいます。もちろん、見通しのないことをどうしてもしようと、ひいてはどうしても苦を探して嘗めようとすれば、このことを悪くしてしまうかもしれません。しかし、大法の中でこの法理を悟る時、よく考えて無理にしないでください。

弟子：法を討論し研究してはならないと師父はおっしゃいましたが、自分の法に対する理解と認識を話すのもいけないと思っている人がいます。

師：それではいけないのではありませんか？ 私たちが今日ここに集まって話すのも間違いでしょうか？ このように認識してはいけません。今日の法会のように自分の体験も話していけないのであれば、それは間違いです。これと違って、自分の放下できない執着を話し、この執着によって、大法に対して間違った理解または大法のこれからの方向に対して問題をもたせれば、なぜ他の人が言わせてくれないのかよく考えるべきです。もし自分にこの問題がなければ、相手が間違ったことになります。この神聖な法会で私の口を借りて誰それを注意したり、咎めたりしようとするれば、それはあなたにはできないことです。なぜなら、私にあなたの考えの根源が見えるからです。

弟子：ある日突然「師父」という二文字に新しい内涵が賦与されたと分かりました。これは最も神聖な二文字です。

師：つまり、この二文字の背後にある内涵をあなたに表したからです。皆さんは大法の一文字一文字を軽視しないでください。各文字の背後はみな佛であり、各文字はみな法なのです。ですから、選んで法を読み、これは読まない、あれは読まない、これは理解できる、あの部分は同意できないなどと思えば、何も読み取れなくなります。

弟子：先生は異なる次元で天国を造られましたが、これらの天国の名称は何でし

ようか？

師：人間は釈迦牟尼佛という次元の如来しか知ることができず、さらに次元の高い神のことを皆さんに分からせることはありません。私は何回もこのことについて話したことがあります。人間にはそれが分かってはならないと私は早い段階で既に話しました。さらに次元の高い神の名前さえ人間に知らせてはならず、人間が彼らの名前を口にするには許されていません。それは神を罵っているに等しいのです。なぜなら、人間は彼らにとってあまりにも低いからです。皆さんに教えますが、神が人間を自分の同類と見なしたことは一度もありません。神は人間を哀れに思っており、人間に慈悲深いのですが、神が慈悲に思っているのは人間のこの生命です。しかし、彼らは人類を獣と思っています。(しかし、これは進化論で言われている概念ではありません)

弟子：法輪大法は先史のある時期に広く人を済度したことがあり、今回の人類に初めてこれほど高いレベルの法を伝えていますが、今までと現在伝えられている大法は同じでしょうか？

師：一、この宇宙の法は誰が最初に伝えたのでしょうか？ 二、その後の歴史の中で、もし私がこの宇宙大法の一部を伝えるのであれば、私はこの法を伝えることにならないのでしょうか？ 私は人間に法を説く時、それほど高いレベルの法を説く必要があるのでしょうか？ ありません。私は歴史の中でこの法を正しに来たのではなく、法が人間を済度する部分だけを説いたのであれば、宇宙の法ではないのでしょうか？ 私はさらに高い次元の内容でなく、人間が知るべきその次元の内容だけ説きましたが、それはこの法ではないのでしょうか？ 同様にこの法なのです。

弟子：宇宙の中でどうして生命が生じなければならないのでしょうか？

師：微生物が自分の考えで人間を認識していると同様に、人間の考えは永遠に神の存在とその考えを理解できません。人間は宇宙についてまだ認識しておらず、宇宙がどういうことか知らないのに、なぜ宇宙の中のことを聞くことができるのでしょうか？ この質問はつまり「なぜ宇宙がなければならないのか？」と聞くことと同じです。なぜ宇宙と生命がなければならないのかということを考える必要はありません。これはあなたに分かることでなく、あなたが分かるべきことでもありません。いくら高くまで修煉しても、これはあなたに分かるようなことで

はありません。もちろん、宇宙を造っても生命がなく、何もなければ、少しも面白くないのではありませんか？ 人間の言葉で言うと、主（全ての王の中の王）または佛、道、神の主である主尊がこのようにしたいからです。

弟子：生命の最終的な存在意義は何でしょうか？

師：あなたは人間の考え方で宇宙と生命の意義を考えており、これは全く人間が思っているような認識ではありません。人間のことについて話してみましょう。もし人間がもう生きてなくなるとまで生きていけば、私は法を説く必要もありません。人間はみな生きていきたいからです。私がここで言っている人間は全体的に皆さんに対して言っているのです。実は私が話した、皆さんが分かった内涵より次元の高い内涵を全く理解することができません。異なる次元の生命はみな彼らなりの存在の意義と生きることに對する真の理解をもっています。彼らの次元での真の理解と皆さんの理解とは全く違うものです。人間の認識は全て逆になっているので、真相を見ることができず、前途も見えず、何に対してもはっきり悟ること、見透かすことができません。科学がいくら進んでも、この空間で這い回っているだけなので、皆さんに多くのおかしい考えがあります。もしいかなる観念も持たずに問題を判断するのであれば、あなたは非常に素晴らしい偉大な神になります。しかし、これは人類にはできないことです。

「私にはそれができます。私が言ったことはみな他人のためになることであり、他には何も考えていません。しかし、相手の機嫌が悪くなりました」という人がいます。しかし、あなたが言った話には本当に何もなかったのでしょうか？ 皆さんが話している時、後天的に形成された観念、異なる時期に形成された観念と考えにある業力が入り混じった後に、果たしている作用を知っているのでしょうか？ 人間の考えは永遠に純粹で清らかなになることはありません。あなたのところに現れるものにはあなたは気づきますが、現れないものには気づきません。ひいては現れても気づかない人がいます。ですから、ある人間が話した言葉の中の要素に、複雑なことが多く含まれています。神が言った話は人間にとって絶対的に純粹で清らかなのです。自分が慈悲であると言っていますが、あなたの慈悲に多くの異なる時期に形成された人間の観念が含まれています。なぜなら、あなたの思惟は人間の考えであり、考えの中に何でもあり、あなたの思惟から発した考えの中に何でもあります。修煉はつまり不純な全てと低能な全てを取り除くことです。

弟子：泣くというのはある時期の状態ですが、なぜ一年も経ったのにこの状態を乗り越えることができないのでしょうか？

師：妨害であるかもしれません。なぜいつも乗り越えることができないのでしょうか？ 法が聞こえなくなったのに、まだ泣いているのであれば正しくありません。もちろん、私はこの学習者を指しているではありません。もし幾つかの問題において、あなたの修煉に影響していない状況下でこの状態が現れたら、他の原因があるかもしれません。以前した間違いやまたは自分が変えられているという状態をみて、この全ての変化はあなたが夢にも想像できないことです。地獄からあなたを拾い上げ、きれいにしてあげた上、それほど偉大な全てを与えているので、泣かずにいられるのでしょうか？

多分皆さんはある一世で私と親族の縁があったのかもしれません。何でもあり得ます。こういう原因です。

弟子：十八Kの金の世界で生じた生命が既に不純になり、法が正された後の二十四Kの金の世界に戻ろうとすれば、高い基準で要求して、はじめて圓滿成就することができます。正しいのでしょうか？

師：そうです。しかしすぐには達することができず、絶えず修煉する過程で徐々に達するようになります。その時の全てが当たり前のようになり、非常に自然です。強制的にこうすべきだということはありません。このことに言及しましたが、当時皆さんの幾つかの問題を処理する時のことを思い出しました。皆さんの生命の最もミクロ的な全てを処理し終えましたが、まだおかしいところがあると私は気付きました。皆さんの生命を構成しているもっと隠れている所では、基本物質まで変異し、頑として何をもっても変えられないものを形成しました。他の神は生命の本質までだめになっていると見たら、この宇宙をこれ以上残してはいけないと判断します。しかし、私はそれを全て変えてあげました。(拍手) これは非常に難しいことで、少しでもずれや間違いがあれば、皆さんの将来の全てに影響してしまいます。ですから、非常に難しかったのです。当時私が法を正し始めた頃のことを思い出しましたが、これは本当に難しかったのです。私が言っているのは皆さんに存在している現象ですが、さらに高い次元にも最もミクロ的な、最もミクロ的なこのような状況が存在しているではありませんか？ ですから、このことは本当に非常に難しいのですが、私はやり遂げることができ、基準に達することができ、しかも今までの最も良い基準を超えました。

私がさらに気付いたのは、人類に変異が起きたのは、とても高い次元で相当次元の高い物質が変異したからです。しかもこの変異したものは非常に頑固です。人間のこの所での直接的な表れは現在の若者の表面行為と関係しています。つまり、責任感がなく、ちゃらんぽらんで、やりたいようにやっており、大声で叫んだり、音楽を流して訳も分からない変な踊りをしたり、ゲームをしたりするなど、とにかく頭の中はいわゆる現代の生活のそれらのもので一杯です。

弟子：坐禅では半跏趺坐をしています、足の激しい痛みは連続しており、断続的な痛みではありません。

師：もちろんそうです。私が言った断続的な痛みは既に結跏趺坐ができた時のことです。その時、断続的に痛みを感じることがあります。足を組めるようになったばかりの時は持続して痛むのです。それはあなたが今まで結跏趺坐をしたことがなく、または足を組めるようになったばかりだからです。それは本当に持続的に痛み、一秒も続けられず、すぐにでも足を崩そうと思ってしまう。こういう気持ちです。本当に震えるほど痛くて我慢できず、心をえぐるような痛みで、落ち着かず痛みます。私は皆さんの全てをよく理解しています。この情況は二つの面から説明することができます。今まで足を組んだことがないので、骨格が硬く、筋を伸ばすことができないからかもしれません。または業力によるものです。この二つの可能性があります。

弟子：いつも自分が大法の要求に達していないと感じ、時間が足りないと思っていますが、これは執着でしょうか？

師：後の部分は執着であり、前の部分は正しいのです。時間などを考える必要は全くありません。ただひたすら修煉していれば、つまり圓滿成就に向かっているのです。しかし、あなたは精進しなければなりません！ ぐずぐずしており、十年、八年、二十年、ゆっくりしていけばいいと思っているのであれば、私はあなたを待ちません。

弟子：修煉者が修煉して圓滿成就した世界まで済度される衆生は、修煉者と縁のある人でしょうか？

師：あなたの世界の衆生はこの世でみなあなたと縁があったかもしれません。私

はあなたのその心を見えています。修煉して圓滿成就したら、あなたが造った借りはどうなるでしょうか？ 皆さんの修煉の過程で私は皆さんの世界を圓滿させています。あなたが借りを持っている生命は、あなたの世界の衆生になるかもしれません。その生命はもちろん喜びます。これはあなたの慈悲の表れ、威徳の表れであり、その生命たちを済度しました。これでこのことを良いことにしました。
(拍手)

弟子：修煉の過程で法を悟るとは、真・善・忍の最も高い次元での特定の内涵を悟るためだと言っていいのでしょうか？

師：このようなことではありません。私が言う悟りとは、修煉の過程で全てのことに對して正念をもって対処できるかどうかです。私のこの話は適切に大法修煉の悟りを言い表しました。そこに座ってことさら考えるのではなく、この文字の背後にどのような内涵があるか一生懸命考えることではありません。このようなことではありません。どうしても悟性の低い人がいて、体調がちょっと悪くなったら、「先生、なぜ体調が悪くなったのでしょうか」と私に聞いたり、または「私は今日どうしたのか」と他人に聞いたりします。次の日に気分を損なうことに遭遇したら、なぜ私はいつも気分が悪くなることに遭遇するのかと言うのです。ですから、この人の悟性は本当に低いのです。実は身体の具合が悪くなったのは、病気を除去しているのであって、または功が伸びる時に現れた状態ですが、それを悪いことと理解しています。魔難に遭った時はちょうど心性を高めるチャンスです。修煉しなければならぬので、この条件がなければどのように修煉するのでしょうか？ これにも耐えられず、あれも駄目であれば、どのように修煉するのでしょうか？ 修煉のしようがなくなります。これはこの人の悟性があまりに低いということです。私が言っている悟りとはこういう悟りです。

弟子：中国や世界の多くの人が修煉していません。先生からこのような人に最も重要なことを話していただきたいのです。

師：私が説いた法にみな意味があり、目的があるのです。人間は取りも直さず人間であり、人間に何を話すと言うのでしょうか？ 皆さんに教えますが、私は皆さんを人間と見なしていません。皆さんは修煉の中の人であり、神の状態だからです。(拍手)

弟子：学習者が自宅の近くで煉功することだけを輔導站は許しており、集団で法

を広めること、煉功することを許していません。

師：あなたが言ったこの情況は、あなたの悟りの間違いであるかもしれず、輔導站の責任者の仕事に不適切なところがあるのかもしれません。双方に問題があるので、私は具体的にあなたに何かを話すことができません。しかし、私のこの言葉をしっかり覚えてください。二人の間にトラブルがあり、第三者がそれを見たら、この第三者まで自分のどこに間違いがあるのか、なぜ私がこれを見たのか考えるべきです。ましてトラブルの当事者はなおさら自分をみるべきです。内に向けて修めなければならないからです。このことが間違いだと感じた時、この出来事はあなたの観念に合っていないのか、それとも大法に符合していないのでしょうか？ あなたはみてるべきです。自分の考えが正しければ、大法に対して責任を持つべきだということから、責任者に自分の合理的で正しい考えを提案すればいいのです。責任者も修煉者なので、あなたの提案を考えるとします。こういうことです。

弟子：師父は「堅実」という経文の中で、他の空間からの妨害が異なる方式で学習者と接触することによって破壊しているとおっしゃいました。

師：このように話しましょう。つまり、大法に符合していないことをさせられたら、それをしてはいけません。大法の動作でないものを教えられたら、それを習ってはいけません。大法の中のことでなければ、それらについてははいけません。これで十分です。私の法身に成り済ましている悪者がいるので、あなたはよく判断し、大法をもって量るべきです。法身に頼って法身の言うとおりにすること自体は即ち魔を招いているのです。

弟子：師父が法を伝えておられる時のことを教えていただけませんか？

師：私があなたに教えられるのは、この法と、どのように上に向かって修めるかだけです。心をこういうことに置きましょう。知りたい他のことは圓滿成就後に置いておけばいいのです。今はあれこれ考えなくていいのです。

弟子：師父が弟子たちに法輪を与えられたことの最も深い意味は、弟子が元の位置に圓滿成就した後に永遠に落ちて来ないようにするためです。

師：このようにしたいと思っています。(拍手)

弟子：李先生はいつか大法の輝きをアフリカにも届けてくださいますか？

師：多くのことはあなたが思うようなことではありません。実は、中国人学習者の中に前世に黒人だった人がいます。白人学習者の中に黒人だった人もいます。つまり、これほど重要なことは、あなたが想像しているような簡単な表面形式ではありません。済度すべき人を私は漏らすことはありません。(拍手) 本を多く読み、法を多く学び、絶えず向上するように望んでいます。

弟子：先生が法を伝えることを止められた後、法輪大法が宗教にならないように私たちはどのようにすればいいのでしょうか？ ご説明願います。

師：これは心配する必要はありません。私はこの大法と一緒に、この世で全てを終わらせるまでいます。(拍手)

弟子：楽しく遊んでいる時に罪悪感があります。これはなぜでしょうか？

師：あなたに教えますが、多くの楽しいことは良いこととは限りません。なぜでしょうか？ 現在の人間はこの時代の流れに順応しているので、物事に良くない一面があることに気付くことができません。昔の古い観念で量ると、それが良くないことだと分かります。もし大法で量ると、それがもっと良くなり、大法に符合していないと気付くのです。しかも、遊びたいという強い心も一種の執着であり、大法の修煉に影響します。

弟子：時に心性が高まったという光景が頭をよぎり、本当のこのように思わせてくれます。

師：心性が高まった時の美しい光景はもちろん良いことで、しかも本当のことです。現在皆さんが感じるのは、皆さんのこのような感じ方から感じるしかなく、常人の現実はまだ現れてはいけません。皆さんはまだ修煉しており、常人の身体をもってまだ修煉しています。常人の身体にまだ多くの良くないことがあるので、それらのものも神のようにしてはいけません。ついでお話しますが、最近多くの人は、中に古い学習者も新しい学習者もいますが、天目のことに執着するようになっています。本当のことをお話しますが、その大きな原因は、皆さんの考えに多くの良くない考えと観念があるからです。天目という智慧の目で人類空間を

超えた光景を見た時、それらも見えました。これらの良くないものに神の真実の形象を見させてはいけません。分かったでしょうか？ ですから、多くの人はずばらくまだ見えないのです。

弟子：私は自分の心性の状態が分かっています。同時に魔性があると感じました。私はどのように魔性を取り除けばいいのでしょうか？

師：実はこれはとても良い状態です。つまり、あなたは自分の良くない一面を感じることができるようになったのです。それでは、あなたはそれを排斥し、抵抗し、それを要らないと思ひ、考えの中でそれを排斥し、その考えに従って行なわないようにし、二度と良くないことをしないようにすべきです。このようにすれば、あなたはつまり修煉しており、向上しています。これが修煉です。

弟子：集団で煉功する時、先生が言われる功法の口訣を聞いているだけでいいのか、それともみな一緒に声を出して言うほうがいいのか？

師：これは心の中で念じればいいのです。私たちの口訣は心で念じるものです。しかし、声を出して言うことに私も反対しません。もちろん、声に出して言ったほうが、集団煉功の動作が一致するので、それもいいのです。これは皆さん自身で決めればいいのです。私は形式を問いませんが、集団煉功の時、動作が揃っているほうが人々に良い印象を与えるのではありませんか？ これは皆さんの状況に従って行なえばいいのです。私はそれに反対もせず、皆さんに何らかの規定を作ることでもできません。自分の状況に従って行なえばいいのです。これが良いと思えば、そうすればいいのです。

弟子：どうか国内の弟子にお言葉をくださいますようお願いいたします。これは私たちが法を学び、勇猛邁進することに非常に大事なのです。

師：実は私が先ほど説いた全ての法は、国内の弟子に対して言ったことでもあります。皆さんが撮っている録画と録音はきっと国内に伝わっていくと思います。
(拍手)

弟子：先生は情の執着を放下するようにおっしゃいましたが、なぜ神は涙を流すことがあるのでしょうか？

師：神は慈悲の涙です。神の感じ方と悟りは決して人間の情と同じではありません。決して同じ次元のことではなく、同じ概念でもありません。しかもさらにさらに高い次元の神は人間に対して涙を流すことはなく、神は自分以下の衆生のために涙を流しているのです。なぜなら、神の目から見れば、人間は他でもなく人間だからです。

弟子：何もしたくありませんが、先生の経文を読んで驚いてしまい、緊迫感を感じています。しかし、心は焦らないのです。

師：つまり惰性があなたを邪魔し始めています。ですから、それを突破すべきです。誰でも惰性に遭います。時々強くなり、時々緩和されます。これがあなたの煉功と修煉の精進を阻んでいるのです。それを突破しなさい！ それを破りなさい。その鍵、その障碍の要はあなたが執着しているものかもしれません。それを開けることができれば、すぐにそれを取り除き、突破できるようになるかもしれません。(拍手)

弟子：未来の宇宙が原始生命を必要としているので、先生はやって来られました。地球上にこの原始生命が多いからでしょうか？

師：私がここに来たのはここで原始生命を済度しに来たのではなく、この概念ではありません。私が人間の所で法を説けば、全ての空間で法を聞くことができるので、私はここに来て法を説いたのです。さもなければ、私が他の次元で法を説いたら、その次元以下の生命は、人間も含めてそれを聞くことができなくなります。もちろん、異なる次元にみな原始生命があります。

弟子：国内では佛事が盛んに行なわれていますが？

師：これらのことに私たちは関わりません。みな常人の中のことです。佛事をする目的は加護を得ることや財を成すためです。廟を建て、金儲けをしたり、観光地にしたりするためです。人間は他でもなく人間であり、私たちはこれに関わりません。佛教が人間の一部になってしまったので、人間はしたいようにすればいいのです。

弟子：今回の法会に参加した中国の十九の省市区、三十三の地区の大法弟子は地元の大法弟子を代表して師父にご挨拶を申し上げます。

師：皆さん、ありがとうございます。（拍手）

弟子：今回の法会に参加した他の国からの大法弟子は、自国と地元の大法弟子を代表して師父にご挨拶を申し上げます。

師：ありがとうございます。（拍手）

大手印を打ってほしい学習者がいますが、必要があるでしょうか？（拍手）

それでは、一式の大手印を打ちます。その後、法会を終わりにしましょう。

法会はまだすぐ終わりますが、今回の法会は非常に成功しました。今回の法会を通じて学習者にある程度の向上があったと私は分かっています。皆自分との差を見出し、さらに精進するように自覚したのです。（拍手） 大会は予定した目的に円満に達し、これは非常に素晴らしいことです。在席の中に古い学習者以外、初めて大法を聞きに来ている人もいます。この会場に入った人がみな『轉法輪』を手に入れ、この大法が一体どういうものかを見てみて、大法に対してある程度の理解を得るよう望んでいます。あなたに教えますが、現在世界の一億あまりの人が大法を修煉しています。（拍手） 今回の法会を通じて、これを原動力にし、さらに精進し、次元の向上がさらに速くなり、遅れている人が早く追いついてくることができ、間違った道を歩んでしまった人が早く戻って来られるように望んでいます！（拍手） 機会を失ってはならず、時機は再びやってきません。再三に機会を失ってはなりません。今回の法会はアメリカ東部地区、または全米、或いは他の地区において牽引作用を働き、さらに多くの方が大法修煉に加わり、世界で最も良い人になり、さらに良い人、さらに高い境地での良い人になると思います。（拍手） これくらいにしましょう。ここまでにしましょう。皆さん、ありがとうございます。皆さんが一日も早く圓滿成就できるように希望しています。（拍手）